

改正香道秘傳
下

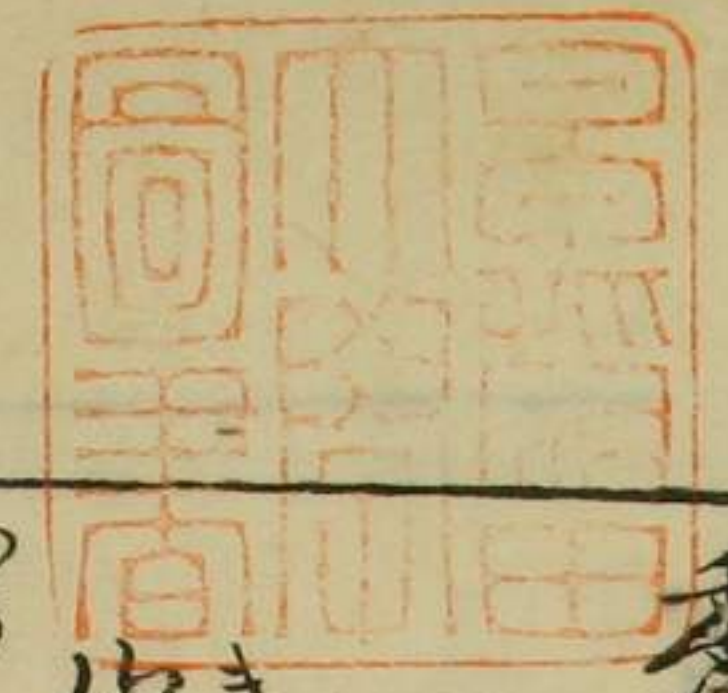
| |
|------|
| ヲ多9 |
| 2295 |
| 2 |



多9
2295
2

香道秘傳書校正卷下

大枝源芳校正

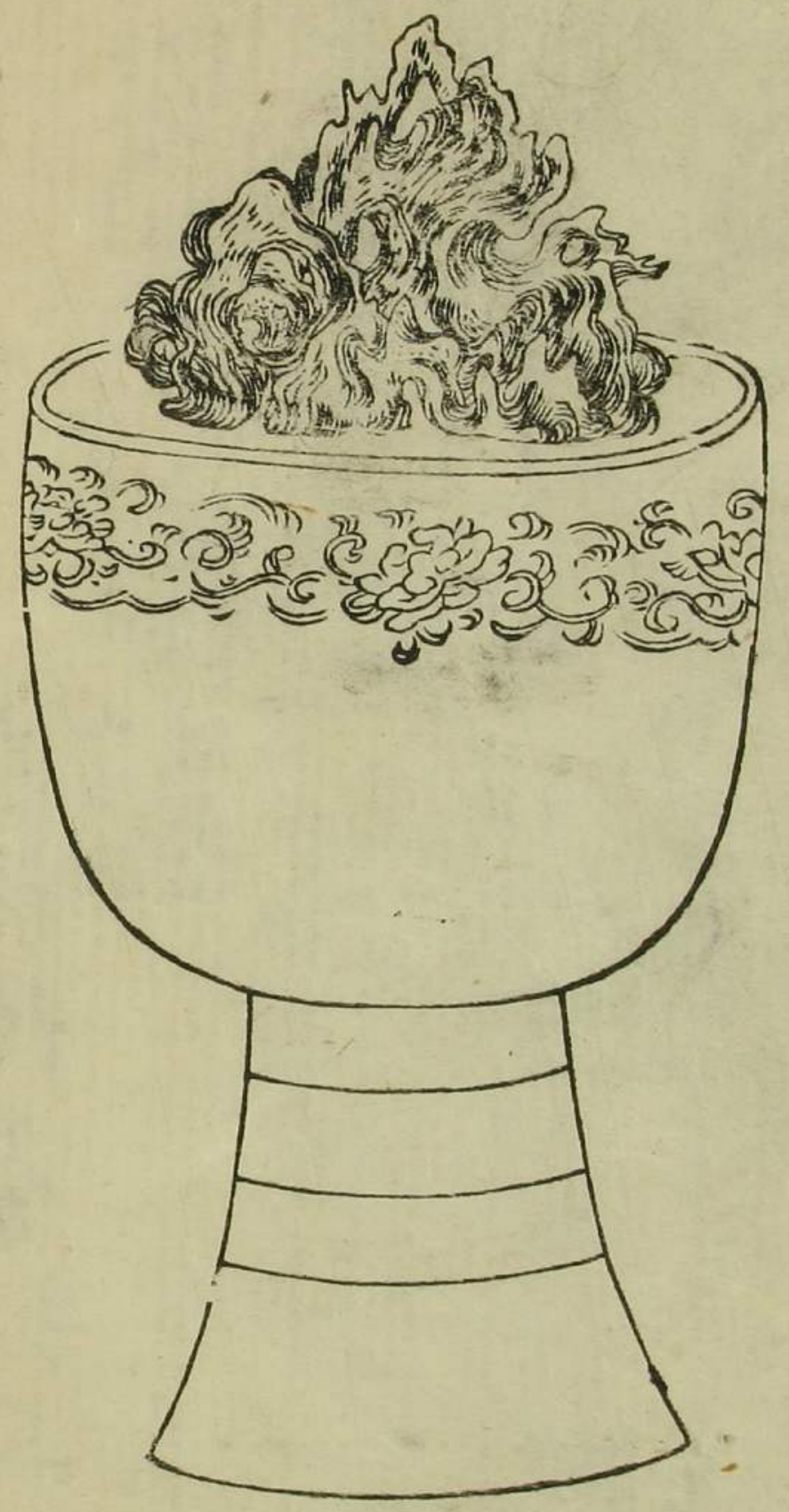


岷翁齋香爐之圖

香爐奉設法約志野入道相傳之旨
存出次第記年以定其先後念其
以間於清不重於承其入道事
元龜甲子
岷翁齋宗入

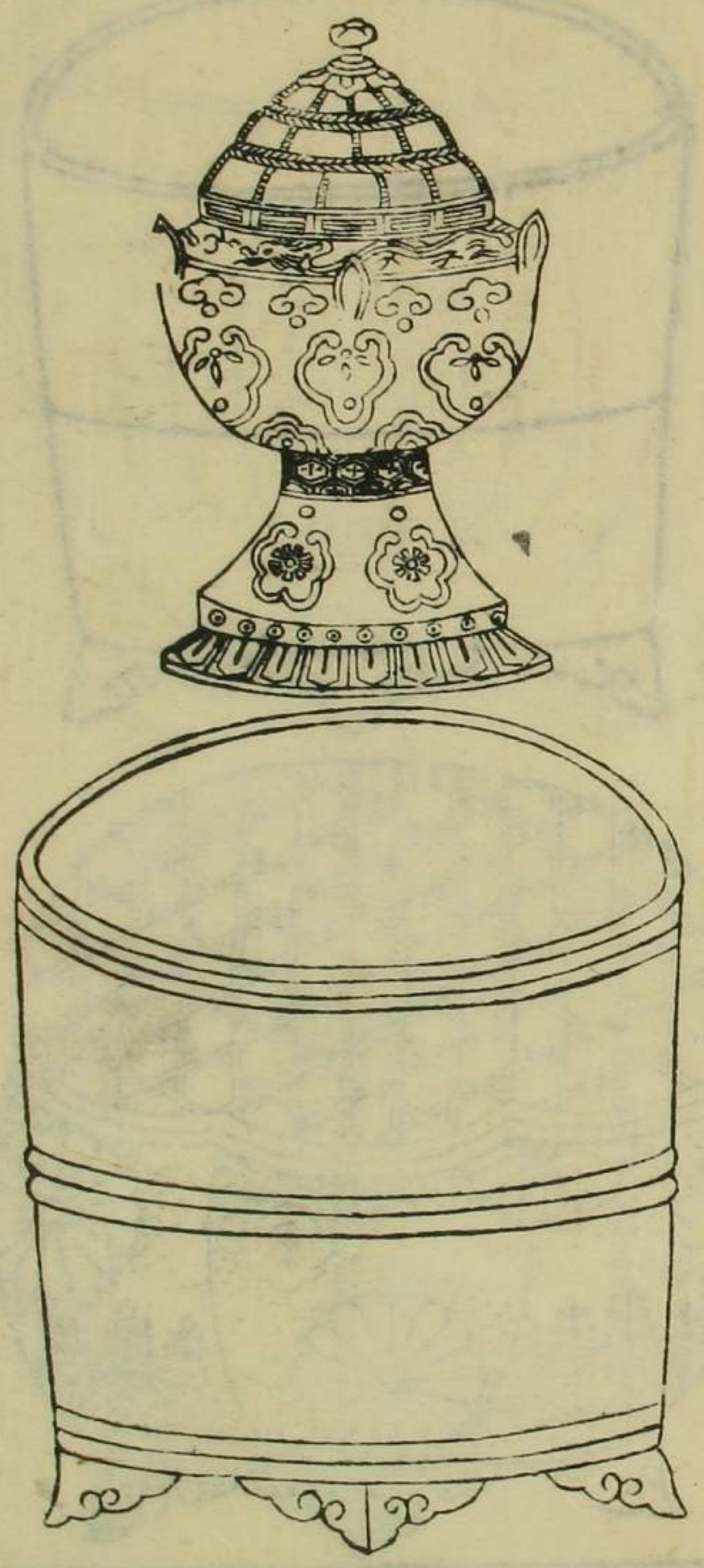
香道秘傳書卷下

二重香爐 灰又合



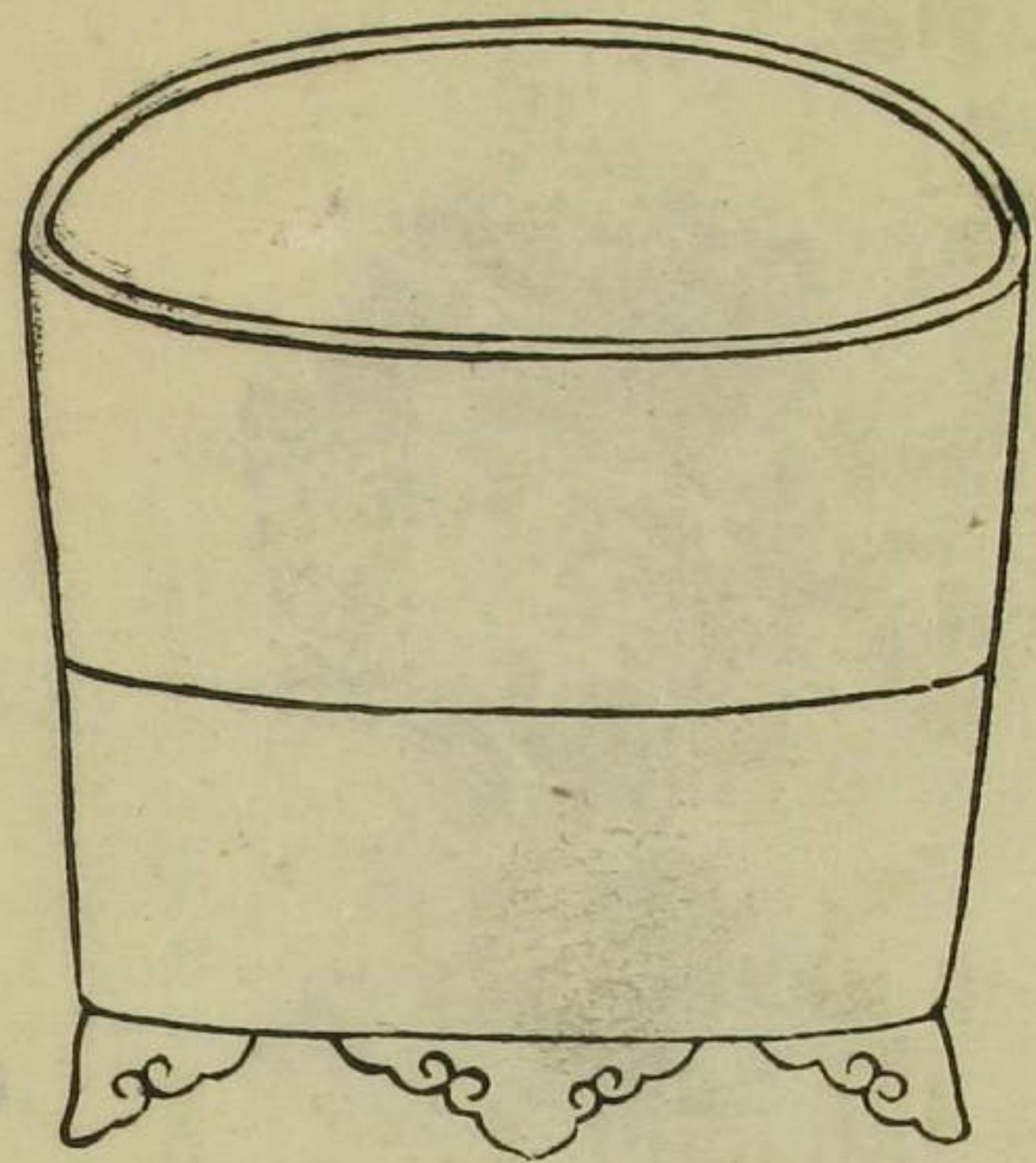
衽蓋の玉物也沈と造りけ玉

巾や香爐 灰五合
日月と相しり時香と焼物なり

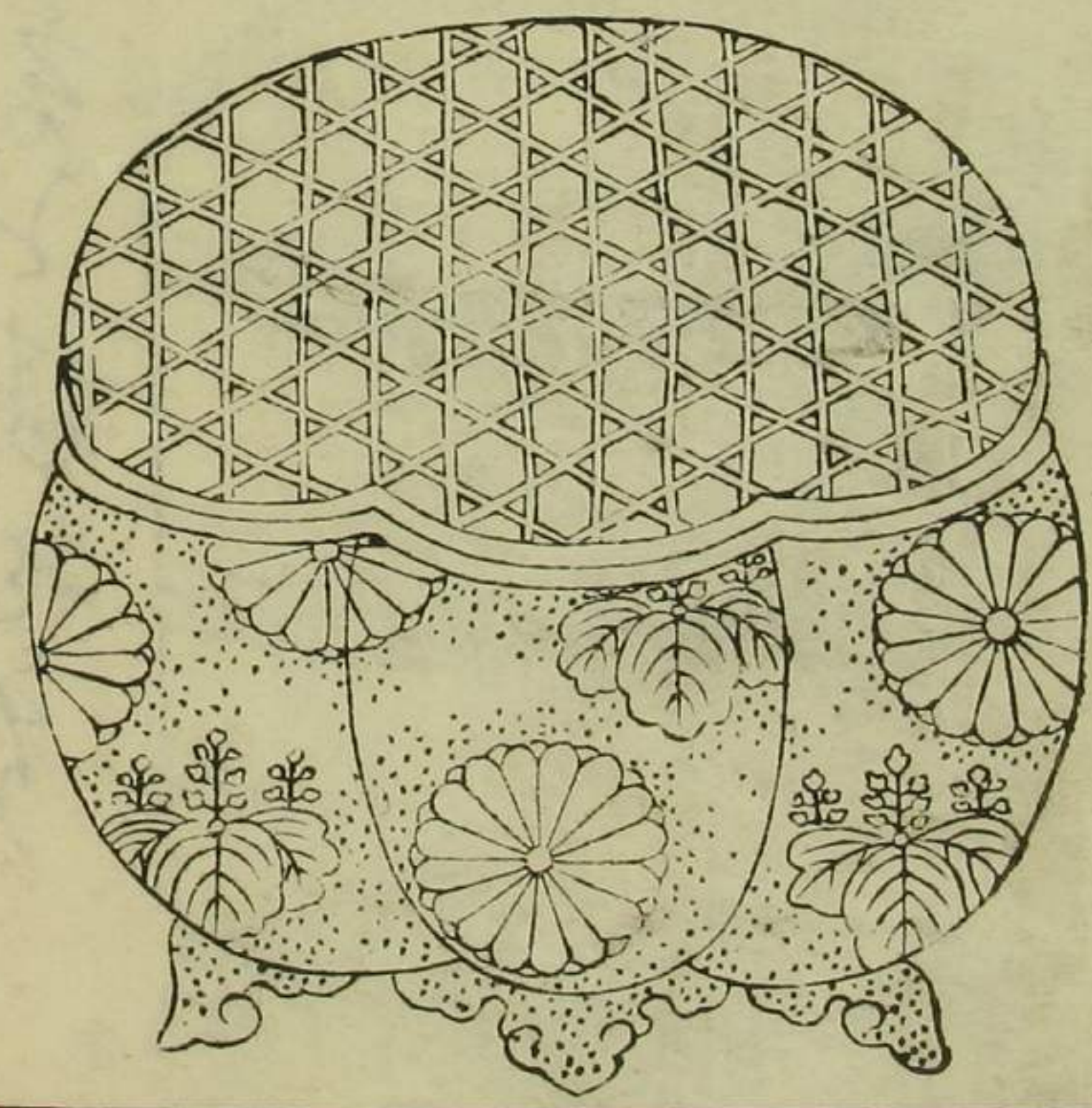


圓香爐 灰五合

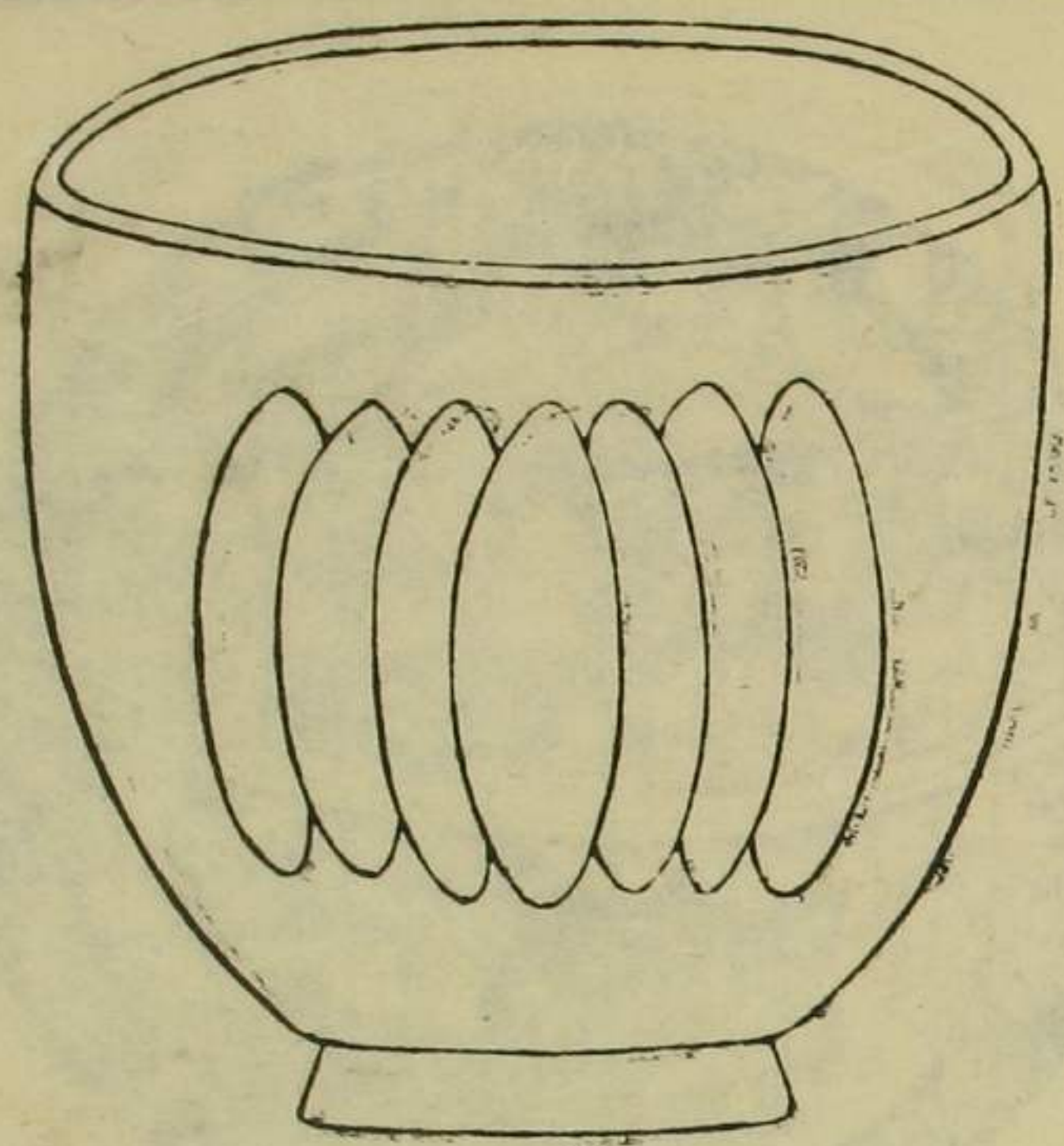
香道和傳 五十一
桶がし香爐灰み合



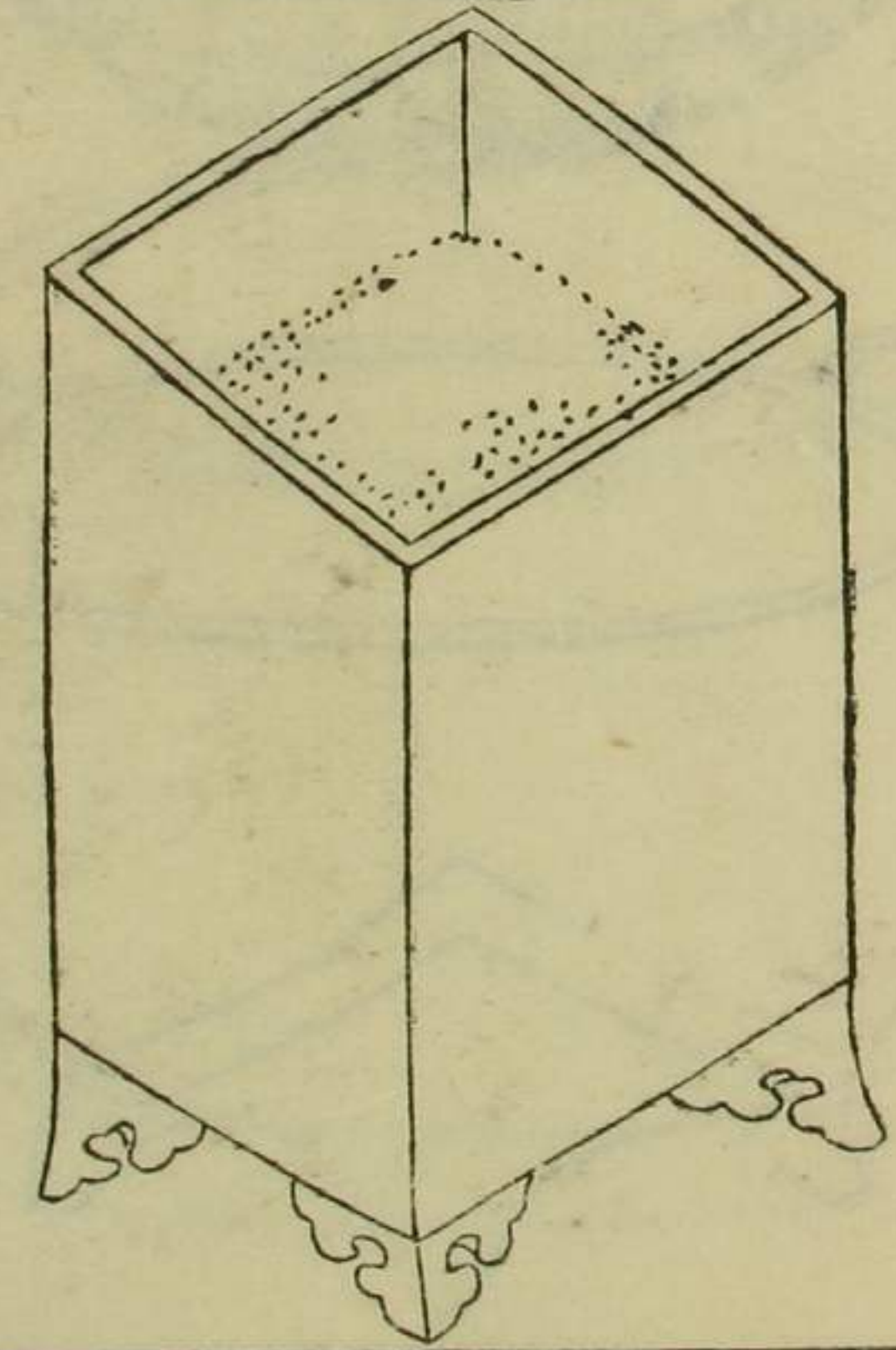
火し香爐灰み合



志不香爐灰み合



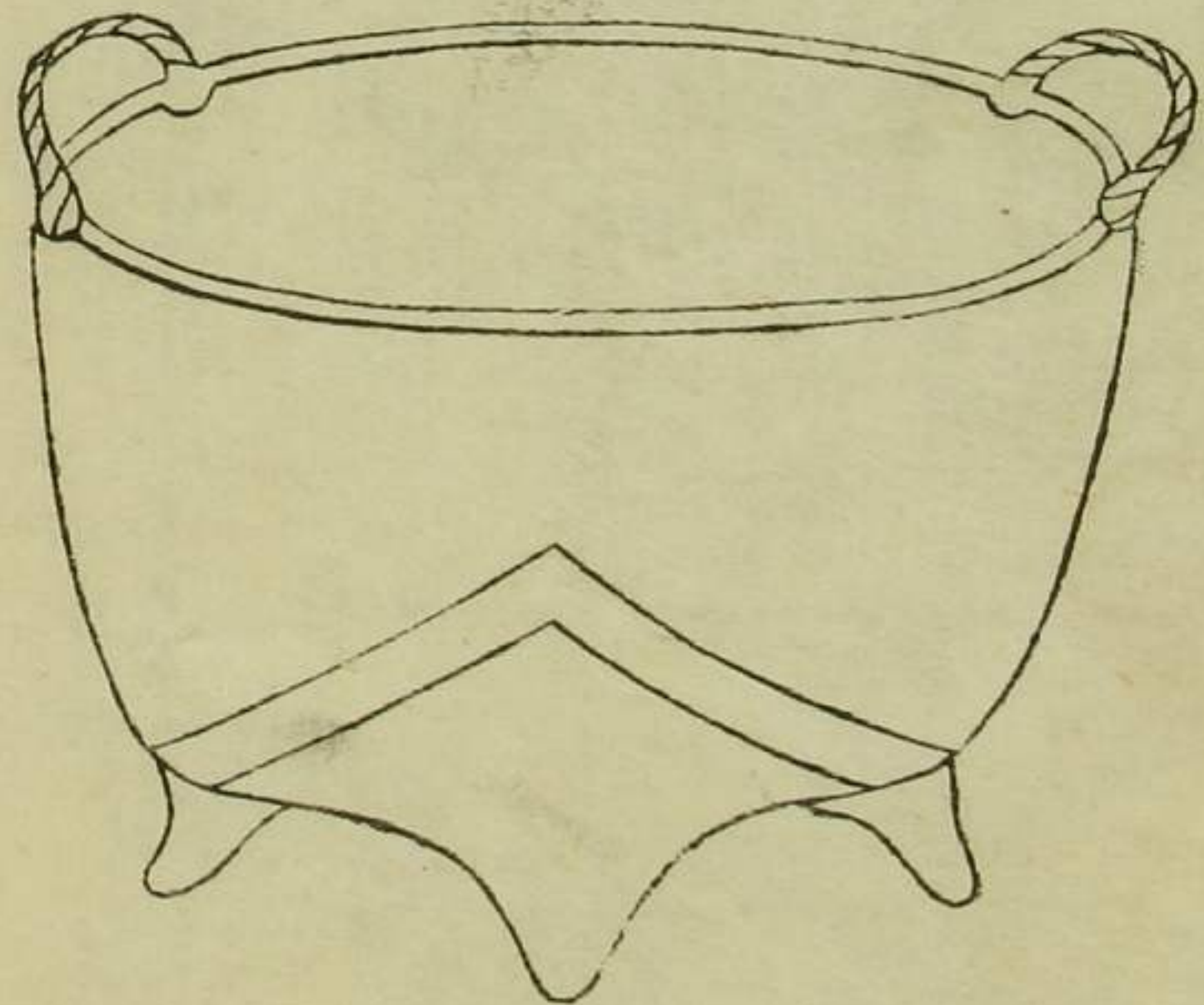
四方香爐灰み合



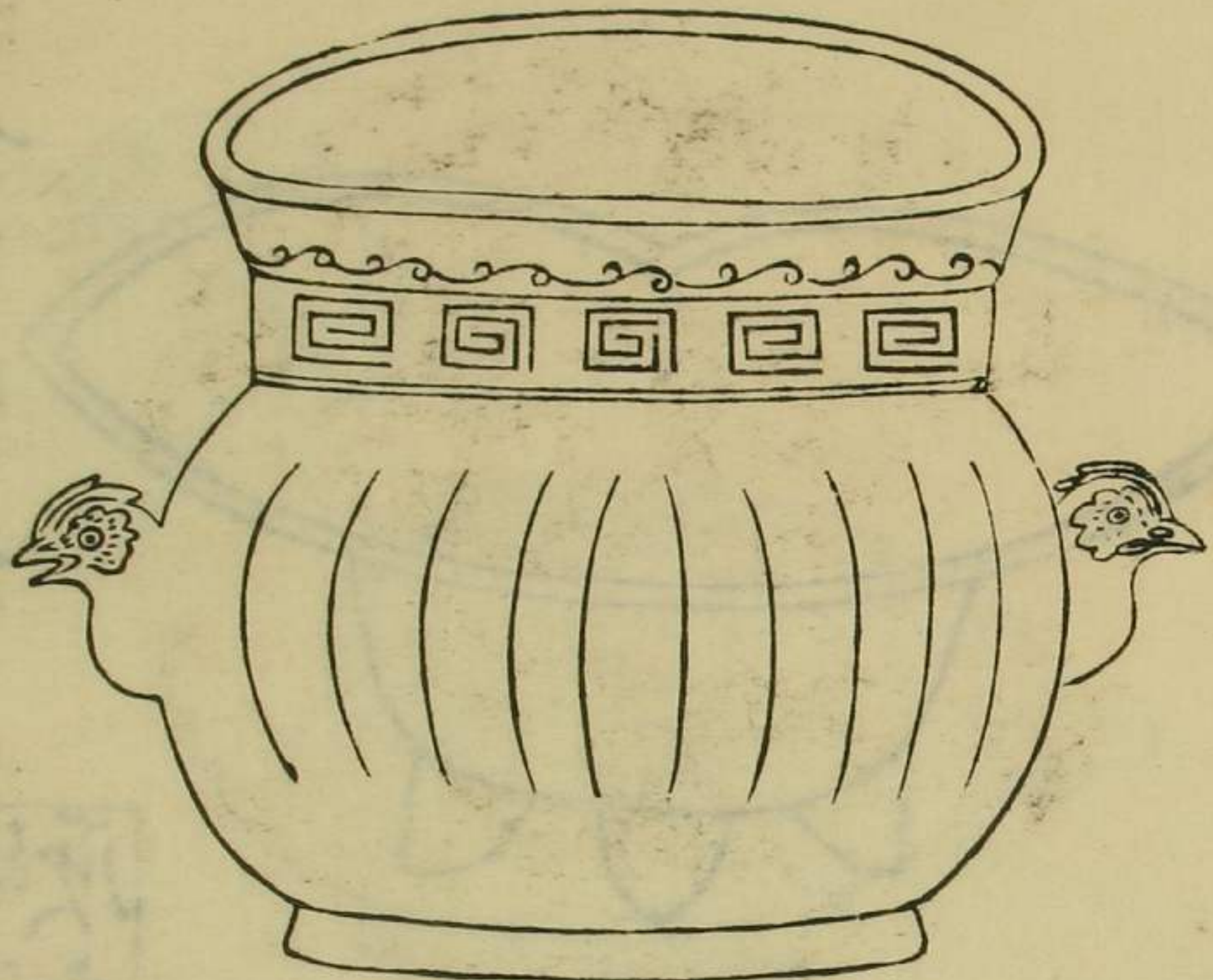
由り香煙灰合



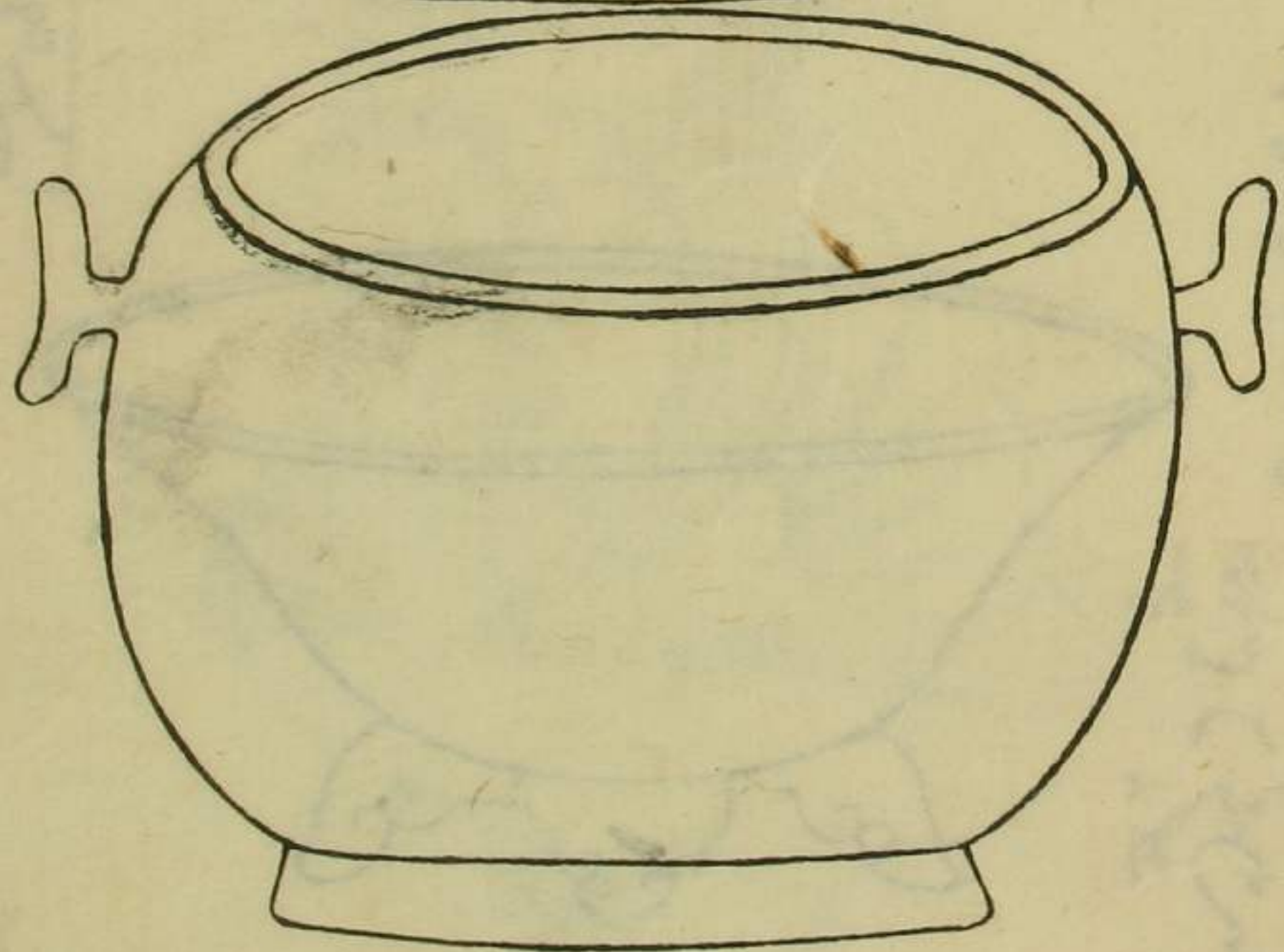
禱香煙灰合



この香煙灰合



この香煙灰合



○ 香道秘傳改正下

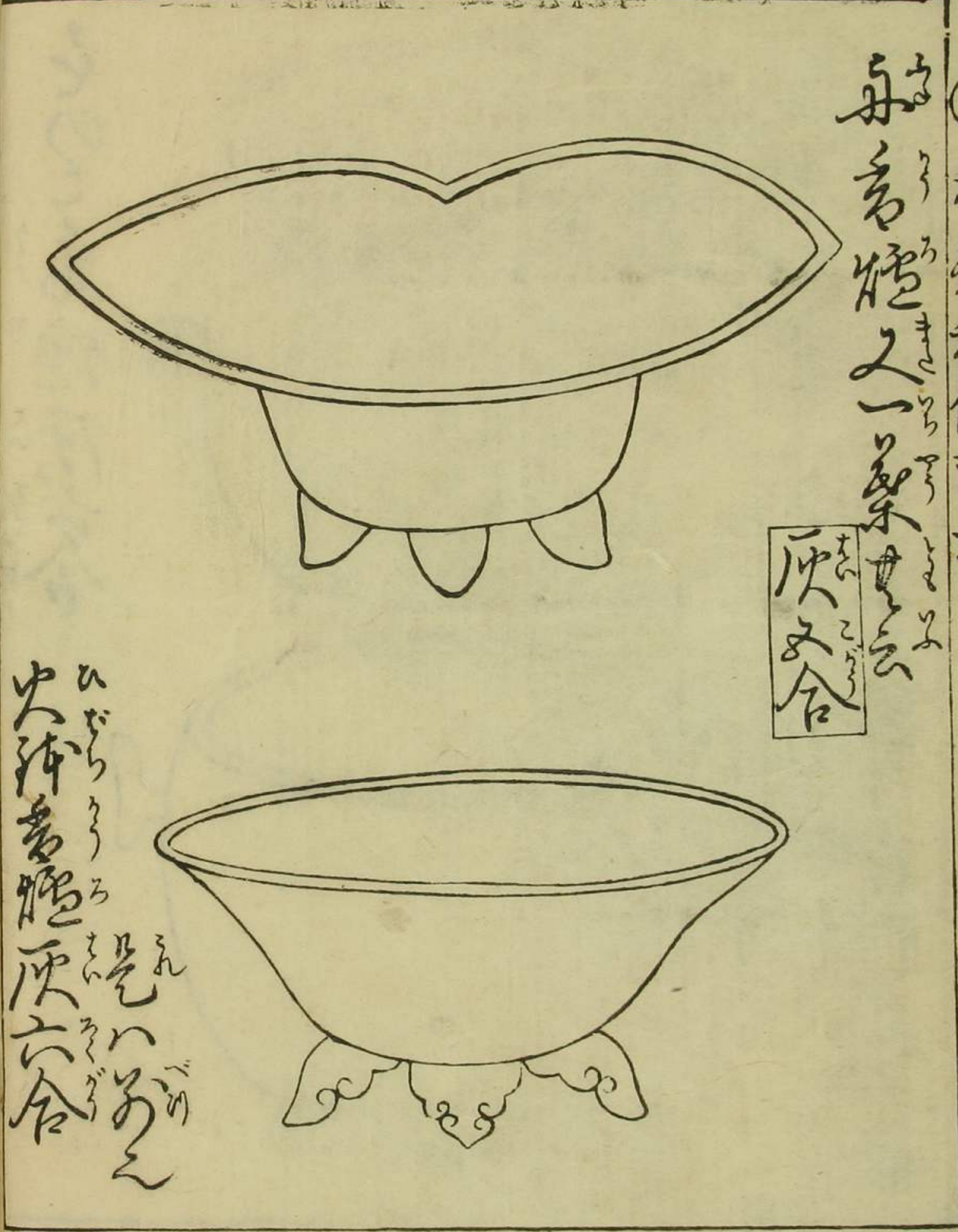


鴨の香爐灰六合

鶏の香爐灰六合

五

○ 香道秘傳改正下

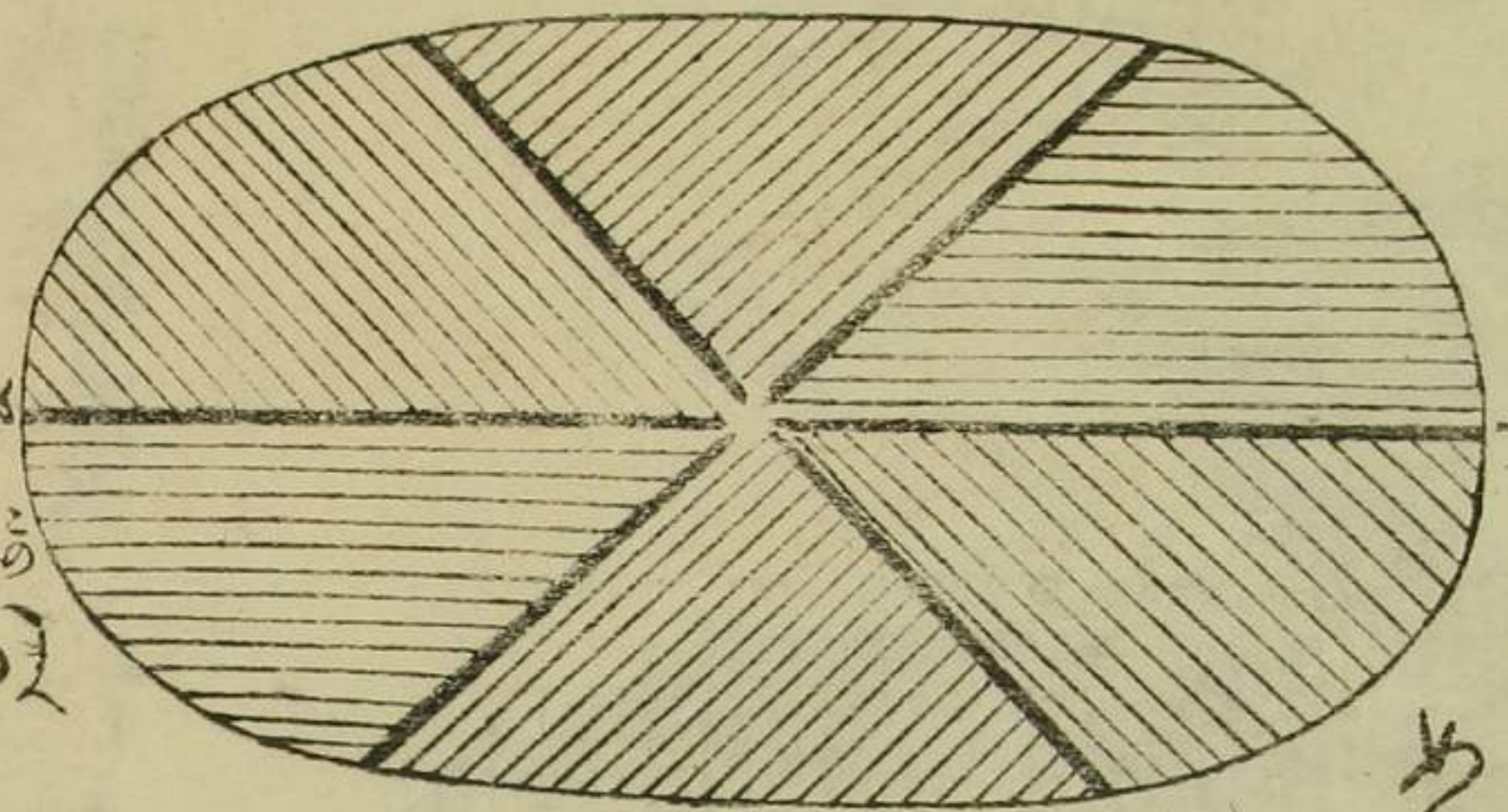


舟香爐又一香爐

灰六合

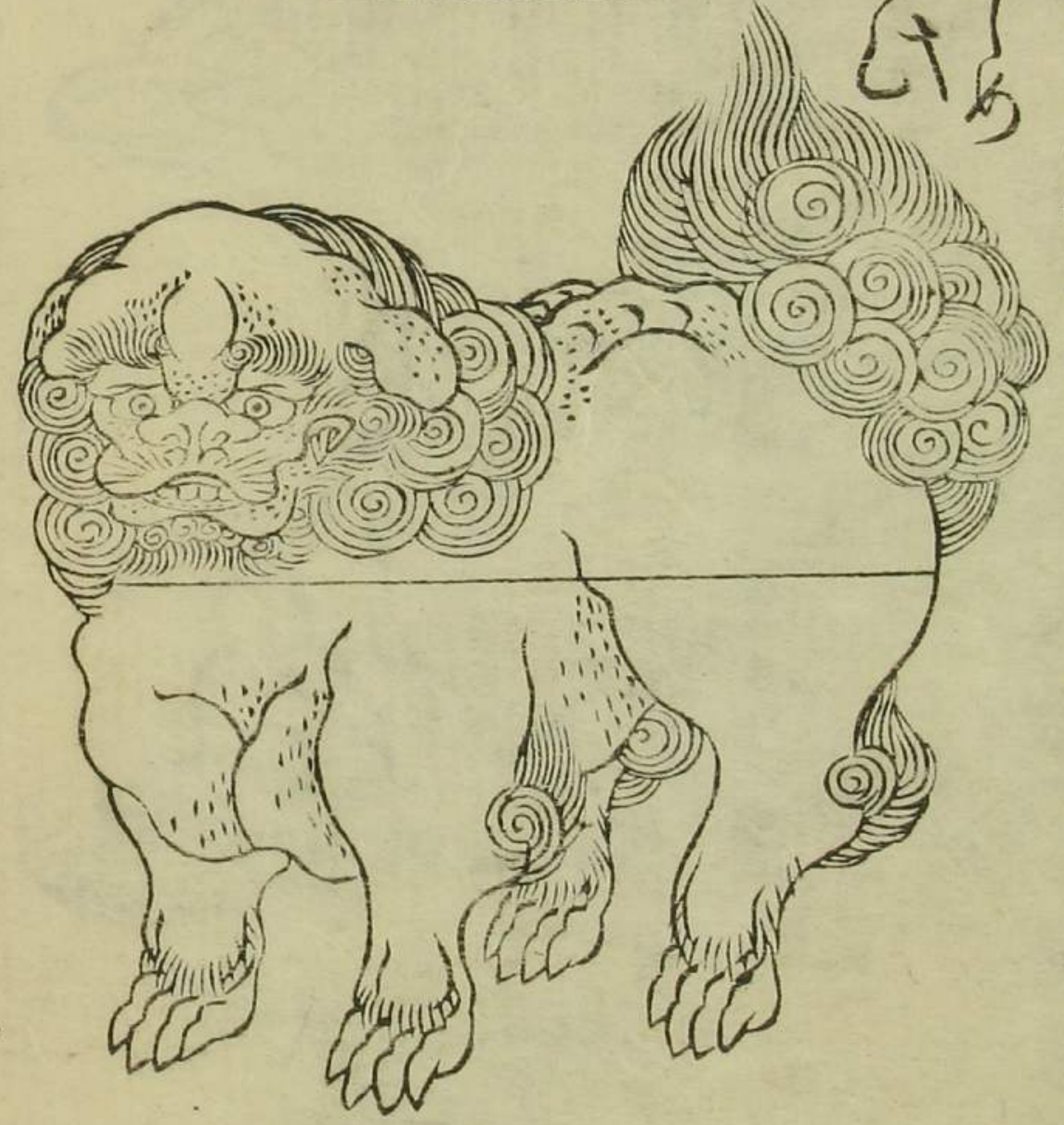
いざら香爐灰六合

獅の香爐



六
合

六合乃着めか

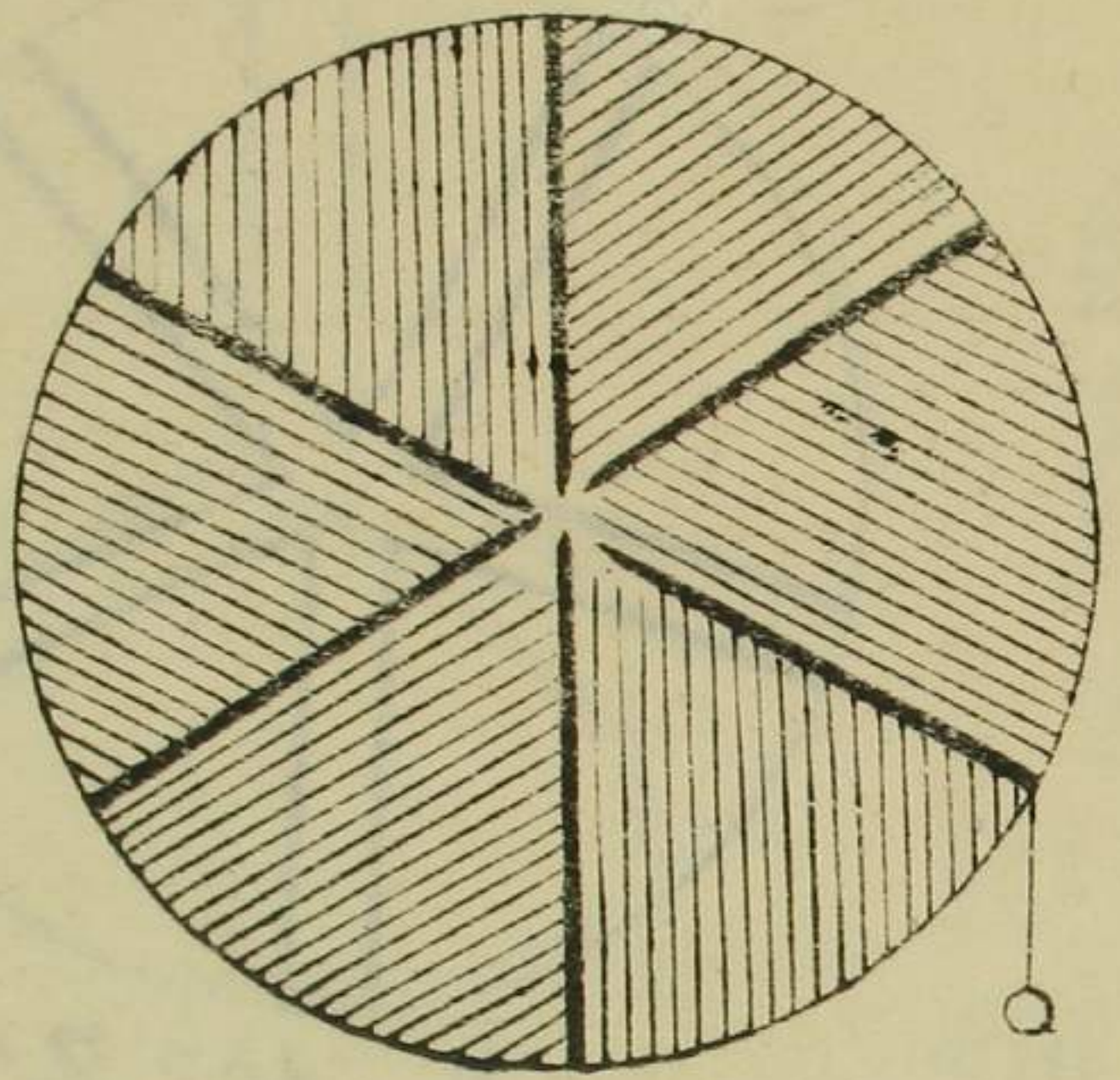


獅の香爐

六合

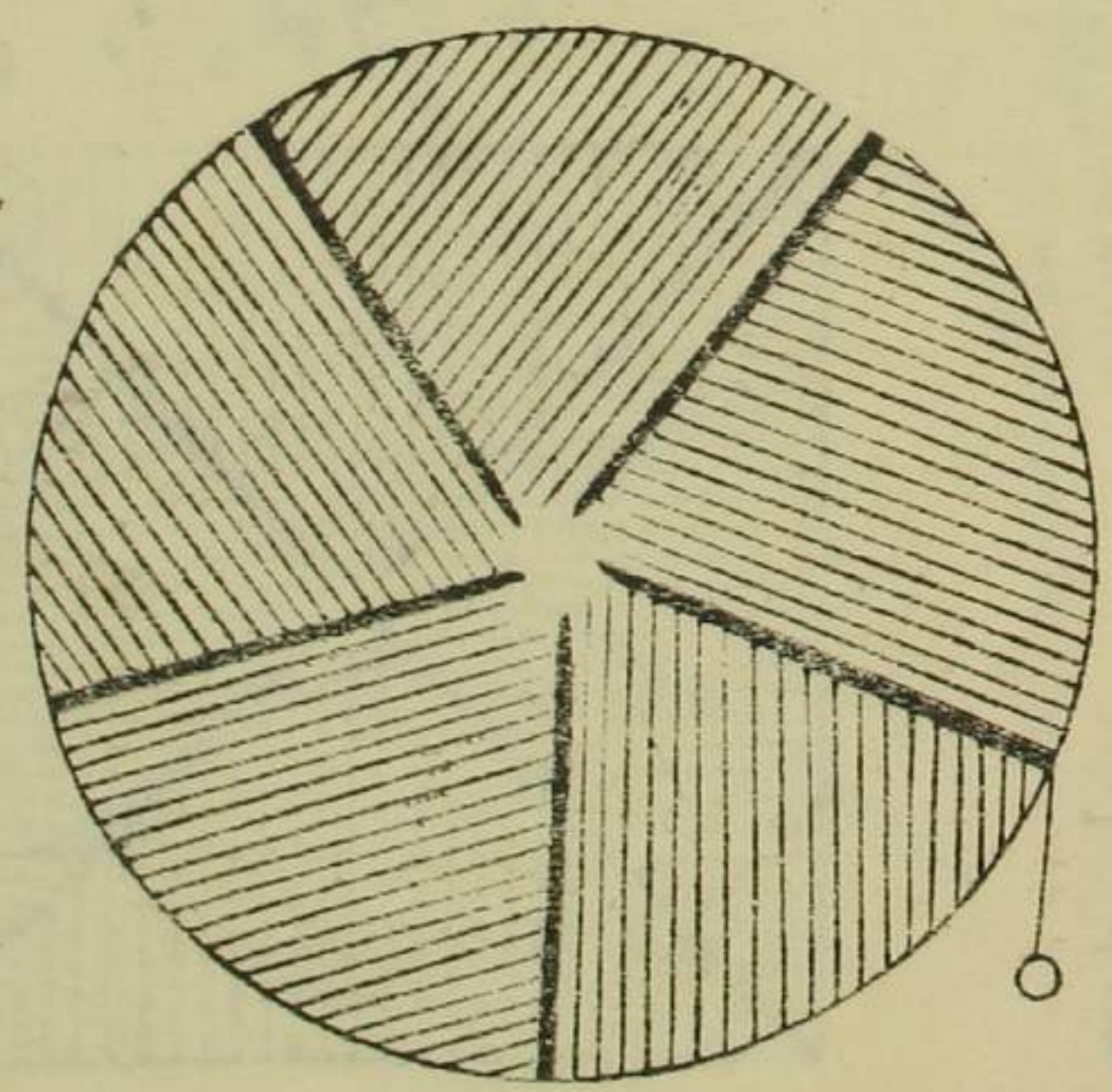
六合乃着めか

又合の着目式



六
合

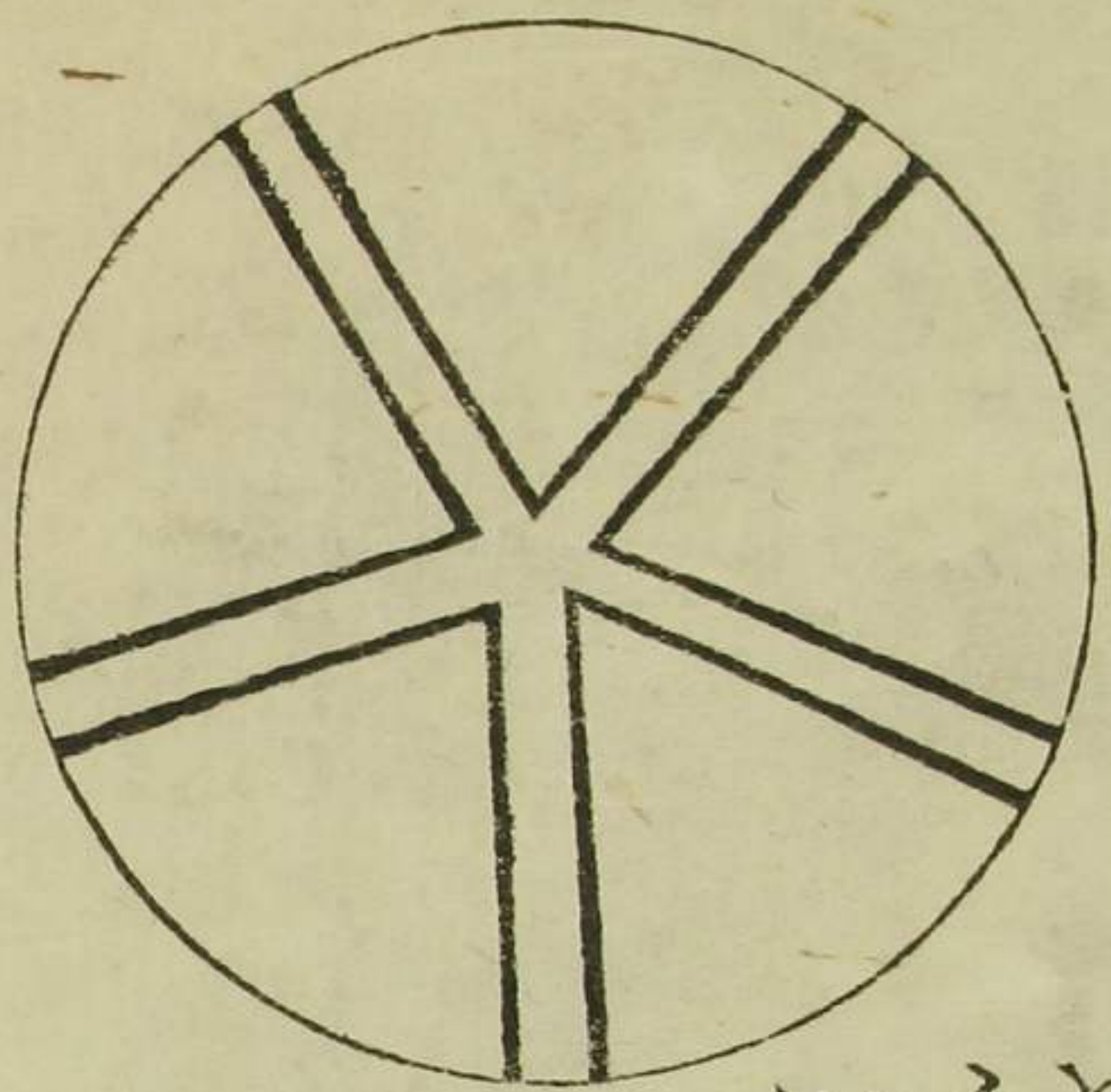
○
金
の
是
の
是
の
是



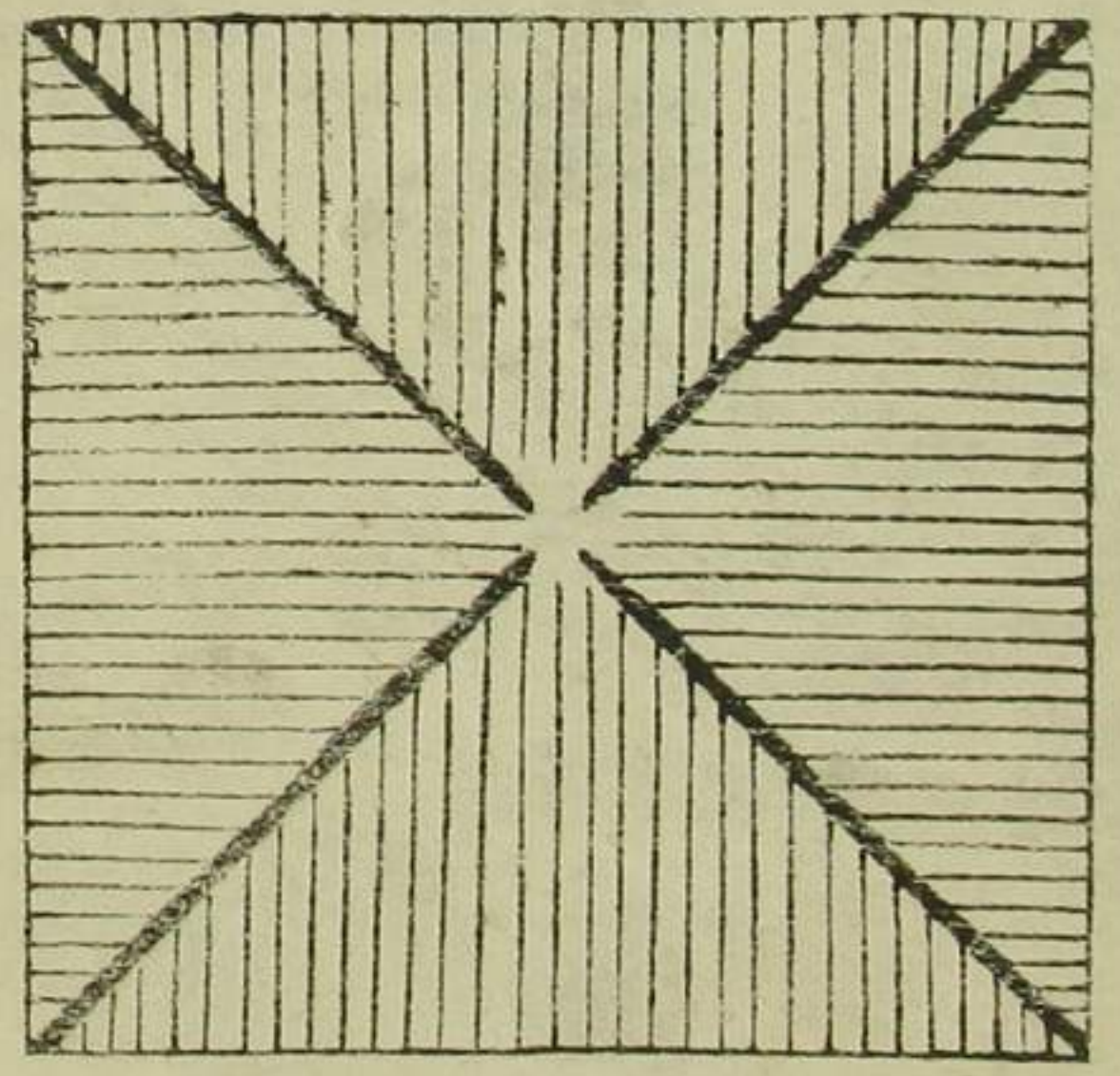
六
合

○
金
の
是
の
是
の
是

灰茶なる者目也



是の
足し
付始
中



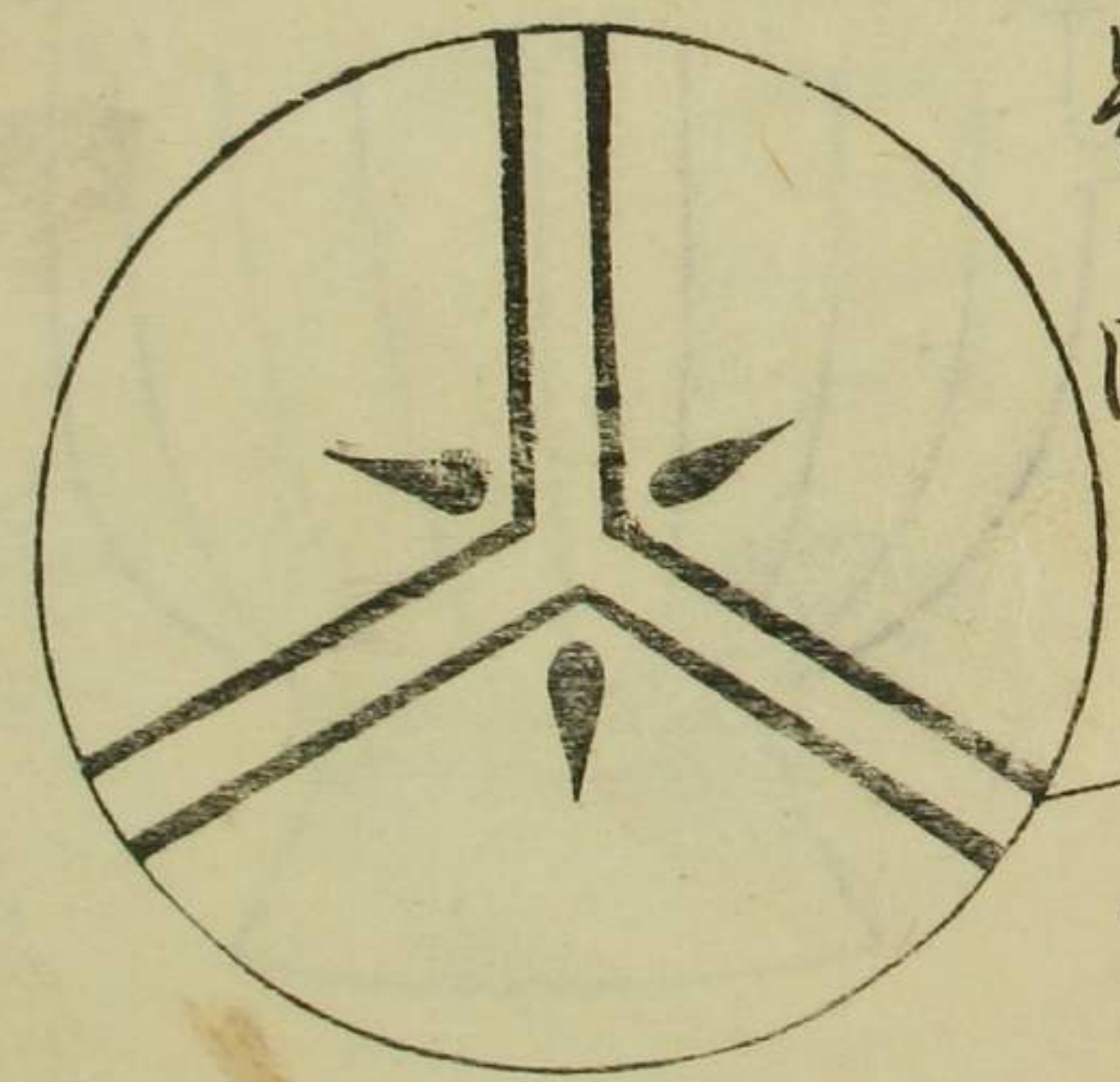
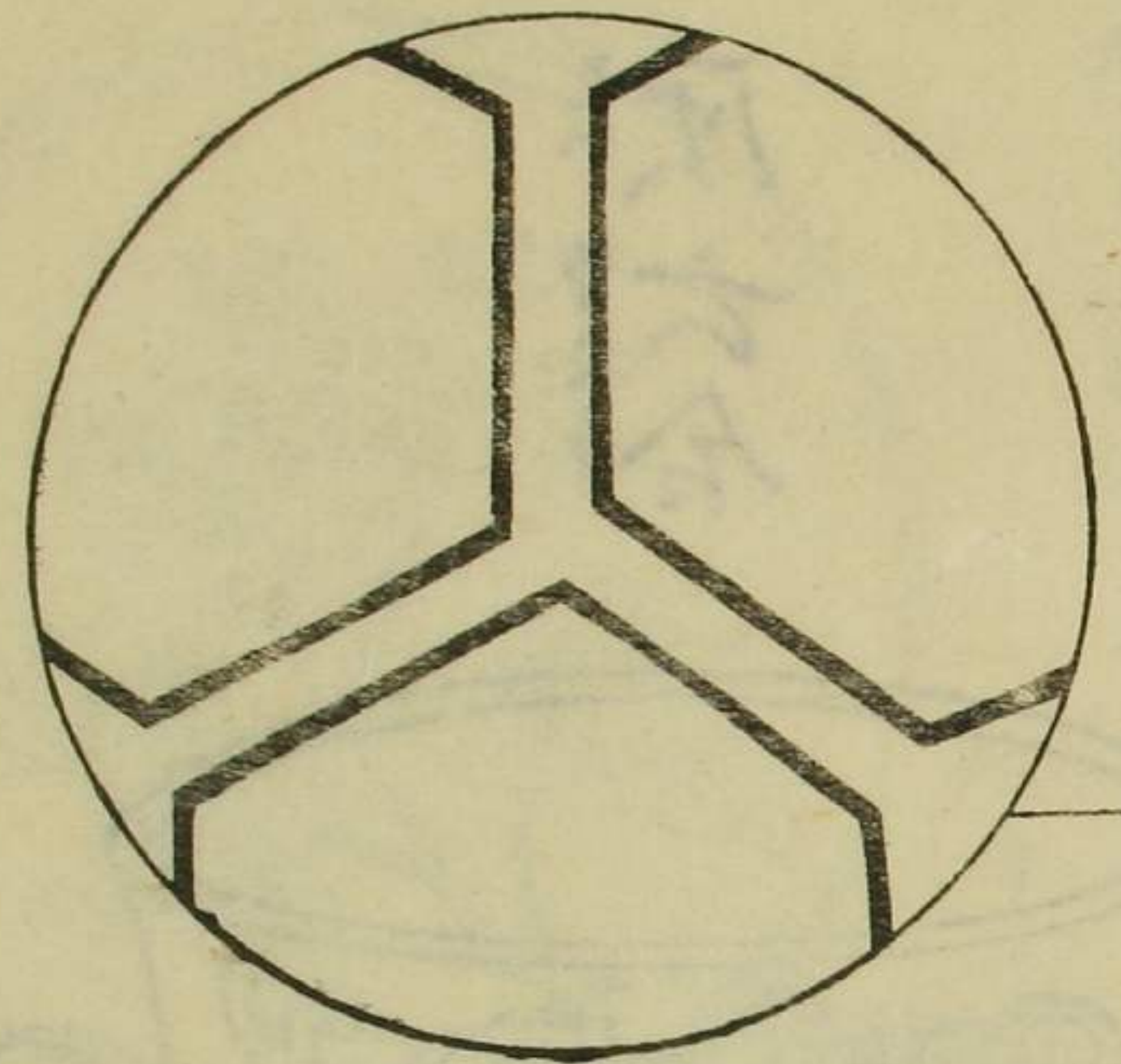
四方者燈著
目也

灰の押指をこれ茶なるふ

是の
足し
付始

是も
同

是も
同



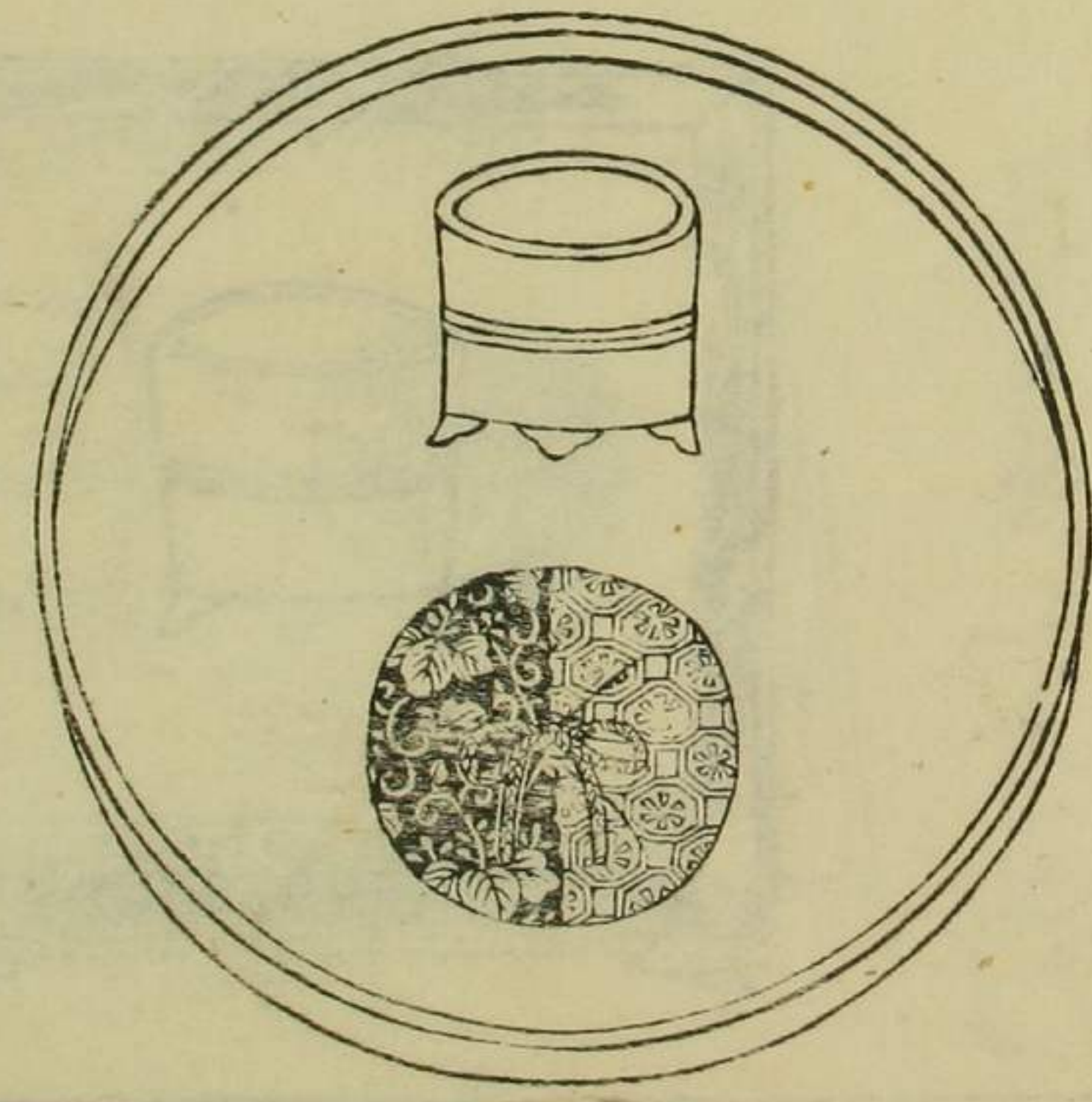
是茶は是より著目付始

二重香爐

灰六合

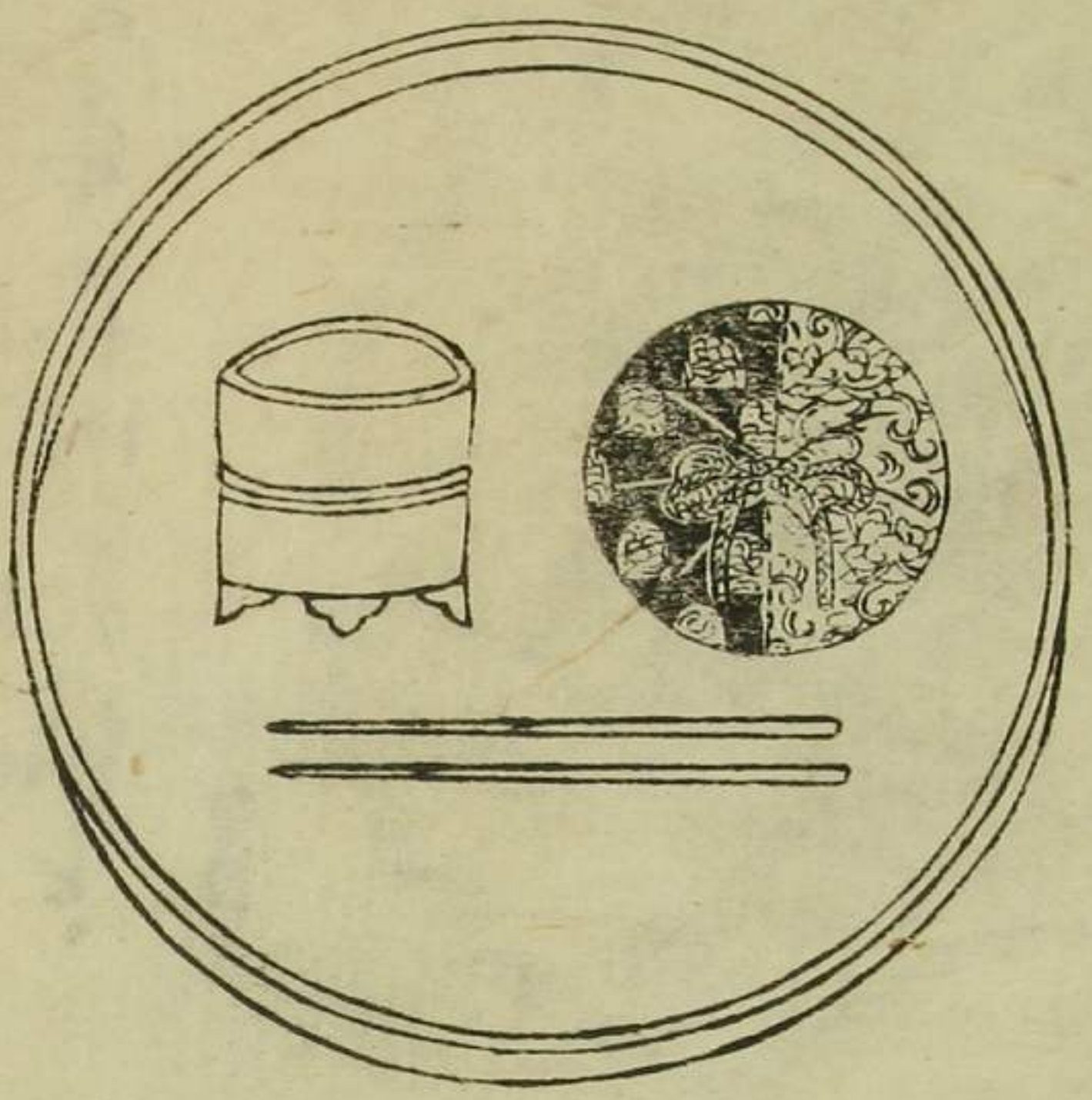


あり物乃盆傍よハ
花きたは法の方へ白也
人希よか付ハ花れかと
白き



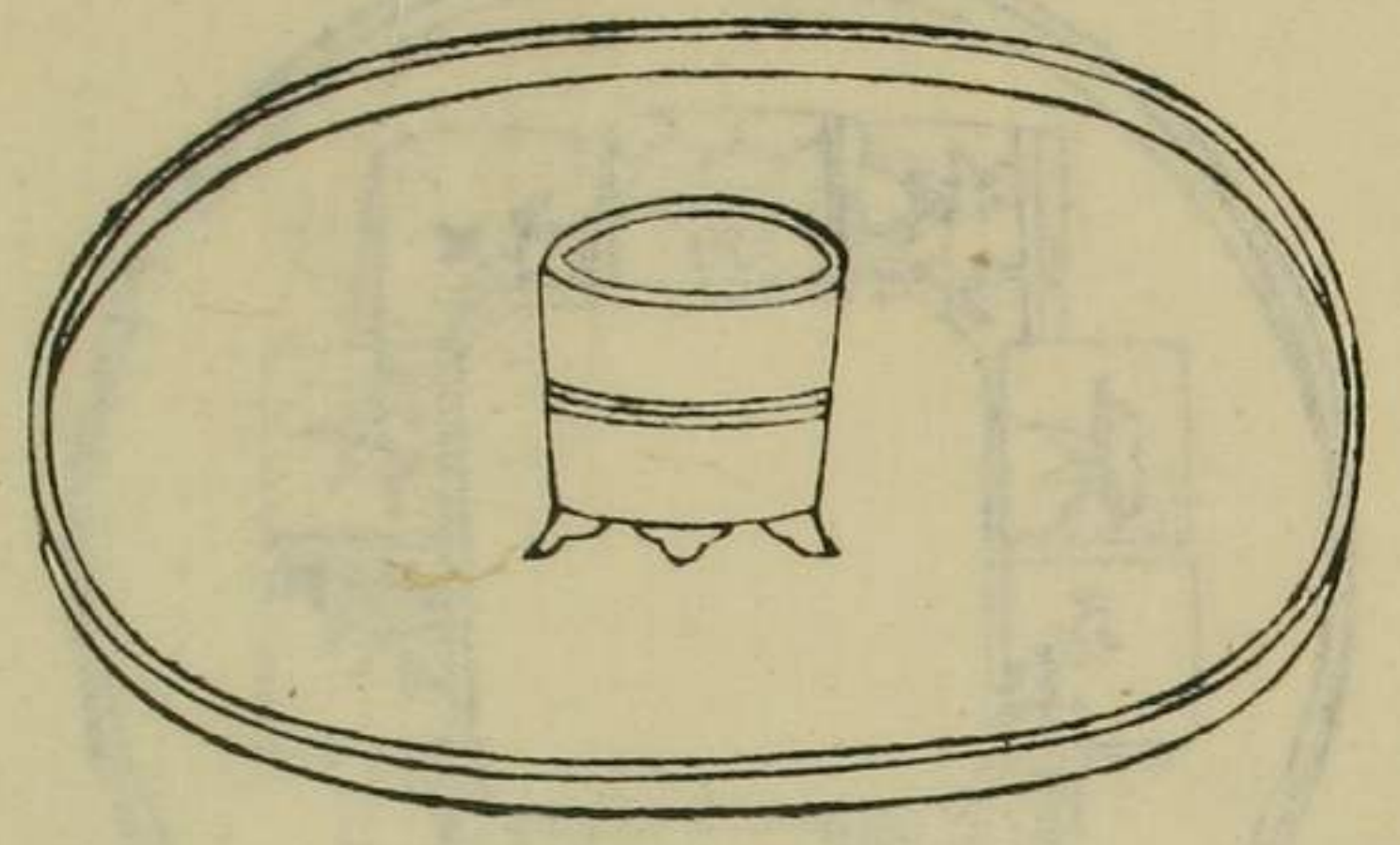
丸をよ盆内ハ
袋の然乃あゆり
け

丸盆合也まるがんときわあそびの

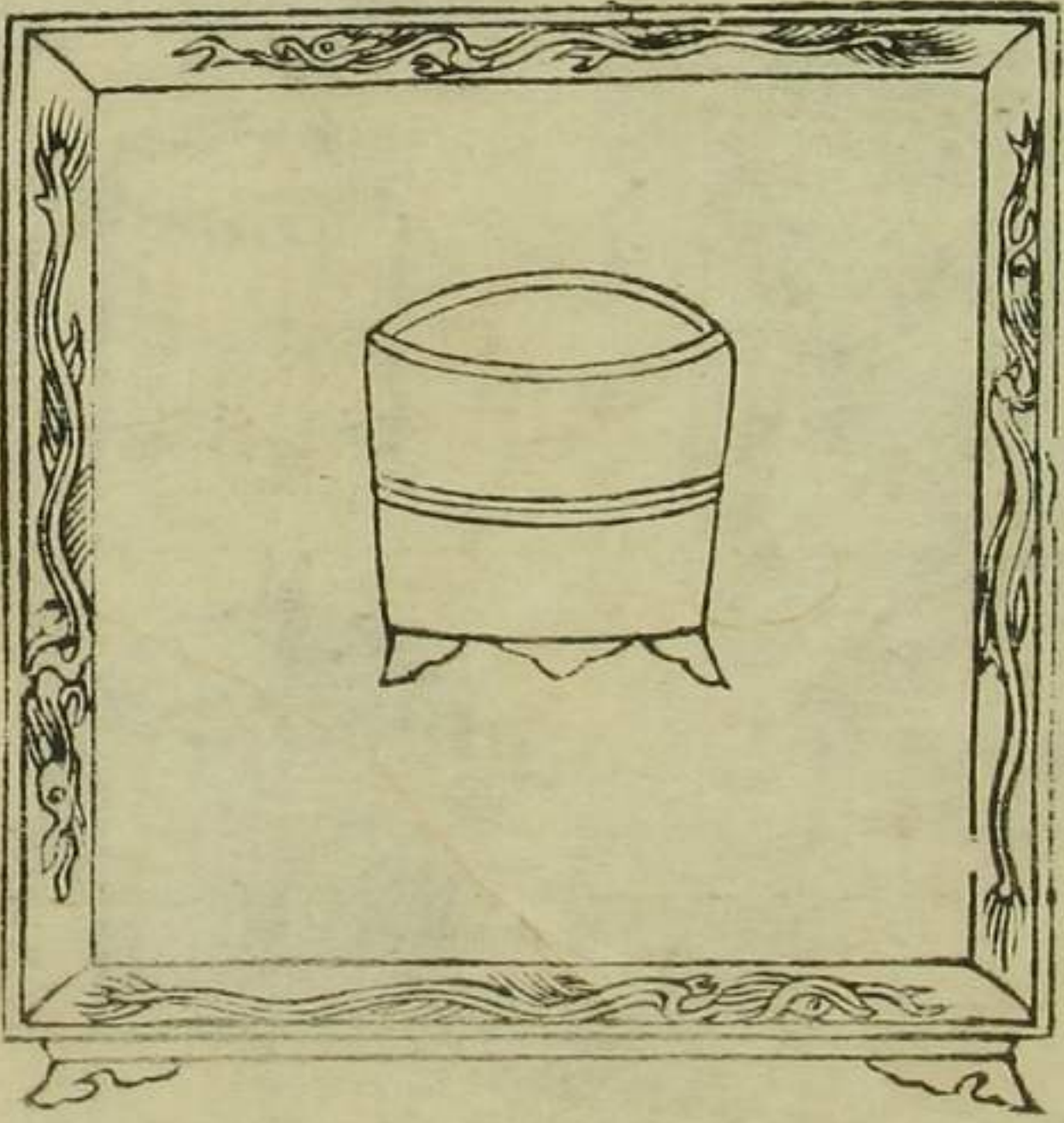


長盆なががん同なま

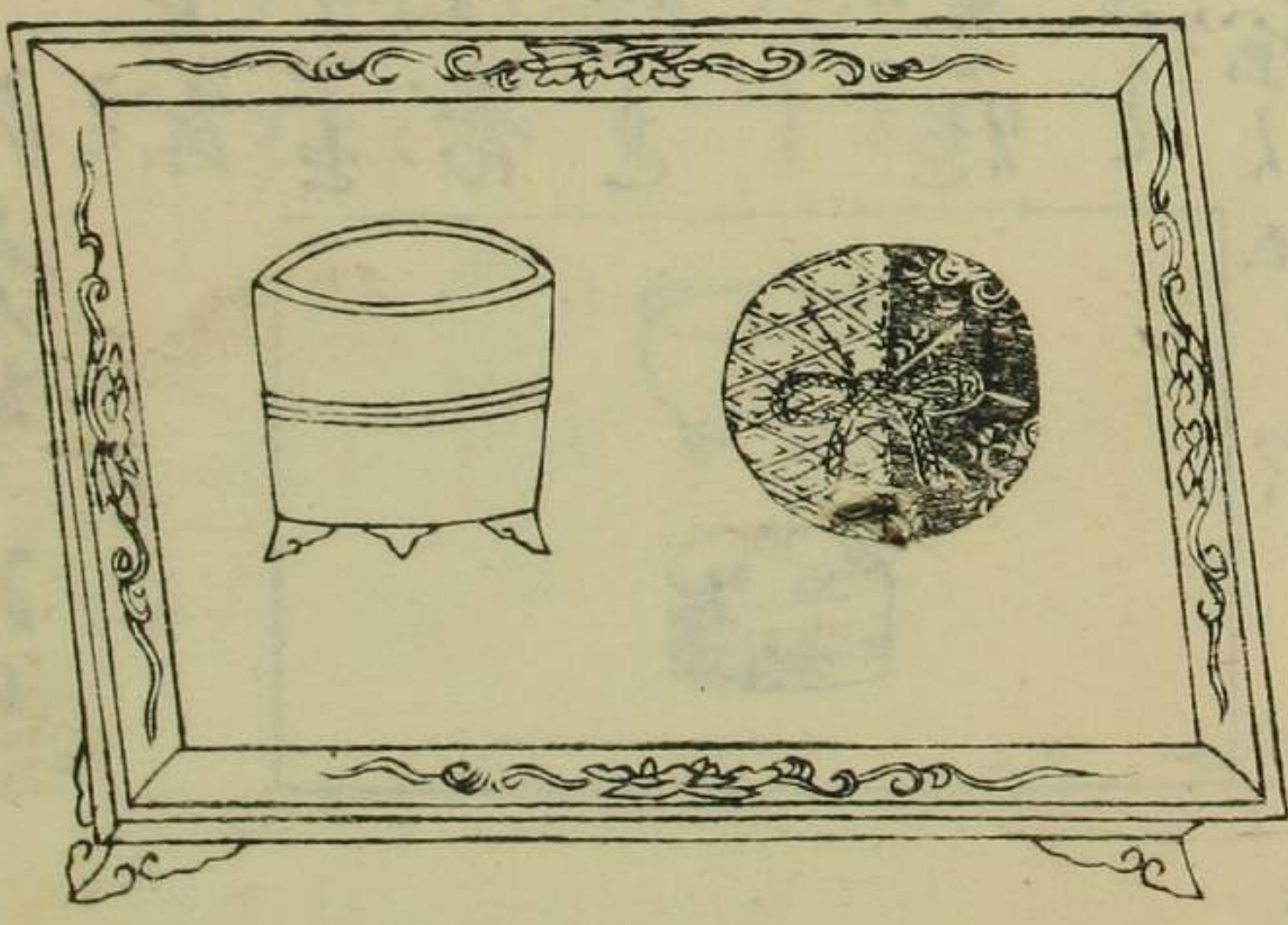
くわがさ盆くわがさがん同なま



四方盆よかたがん合也あそびの

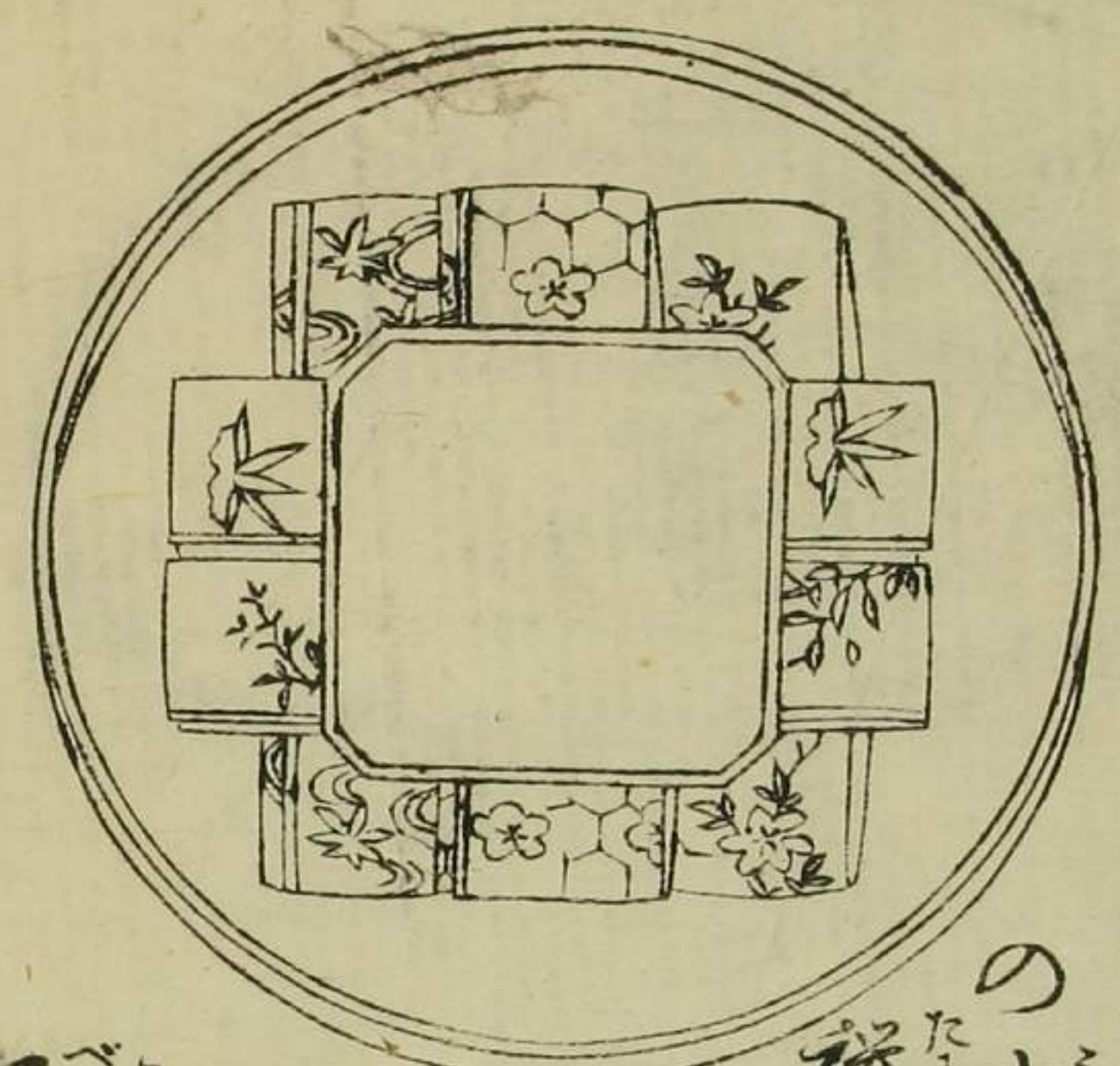


長盆二合也なががんふたあそびの

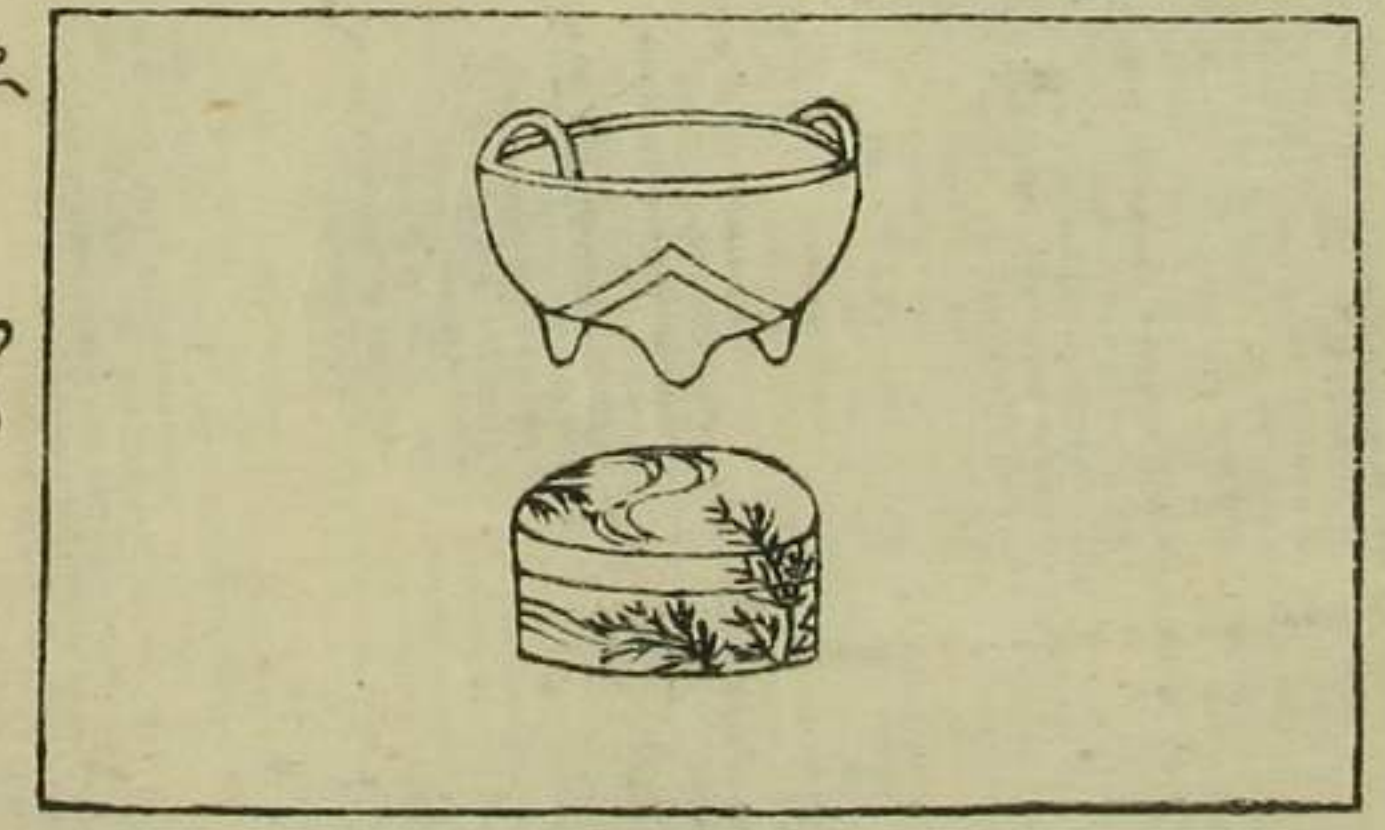


香道秘傳改訂

香合より名香入りくばりかたが



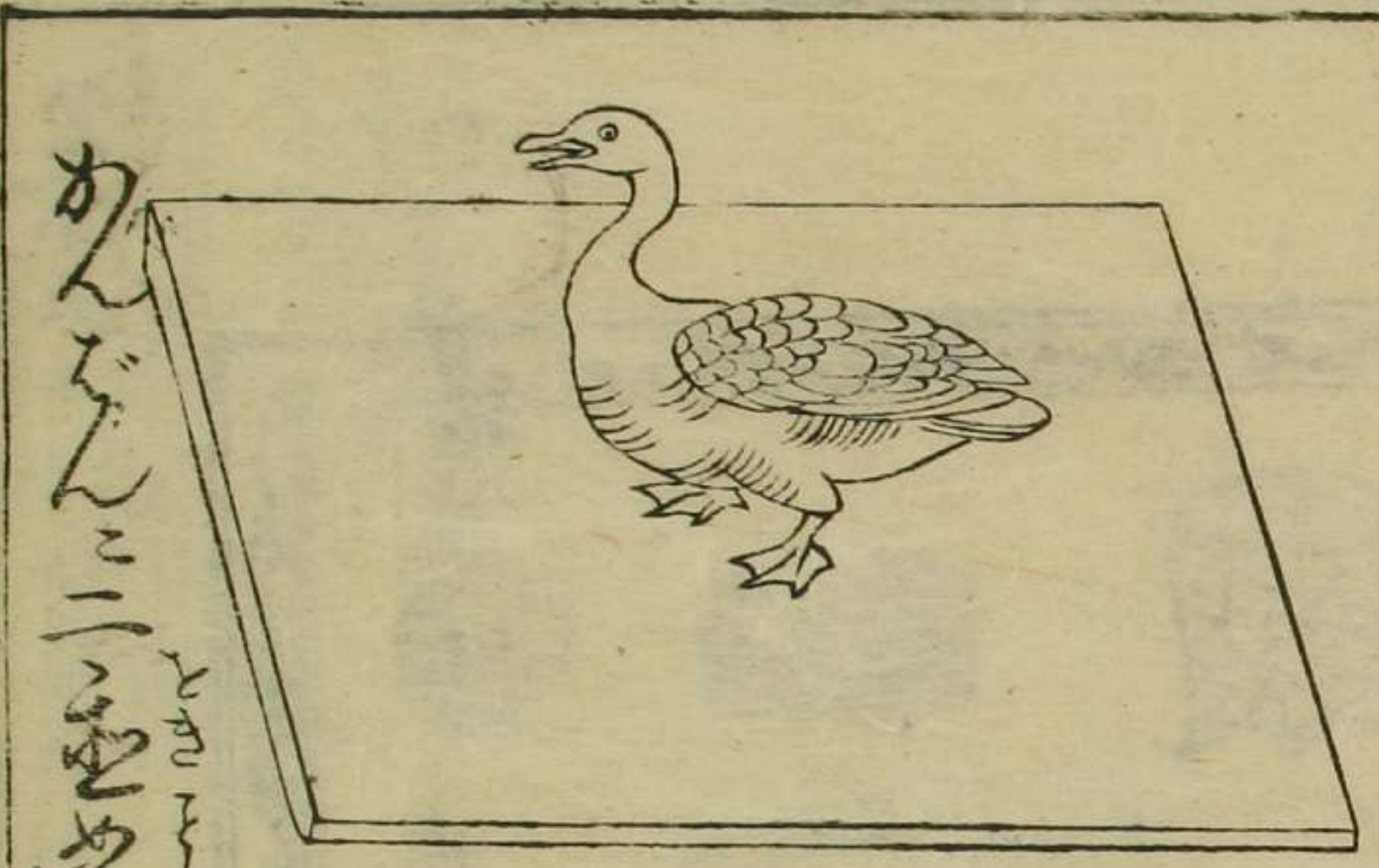
卓と床の中香の香燵



色幅二幅一対

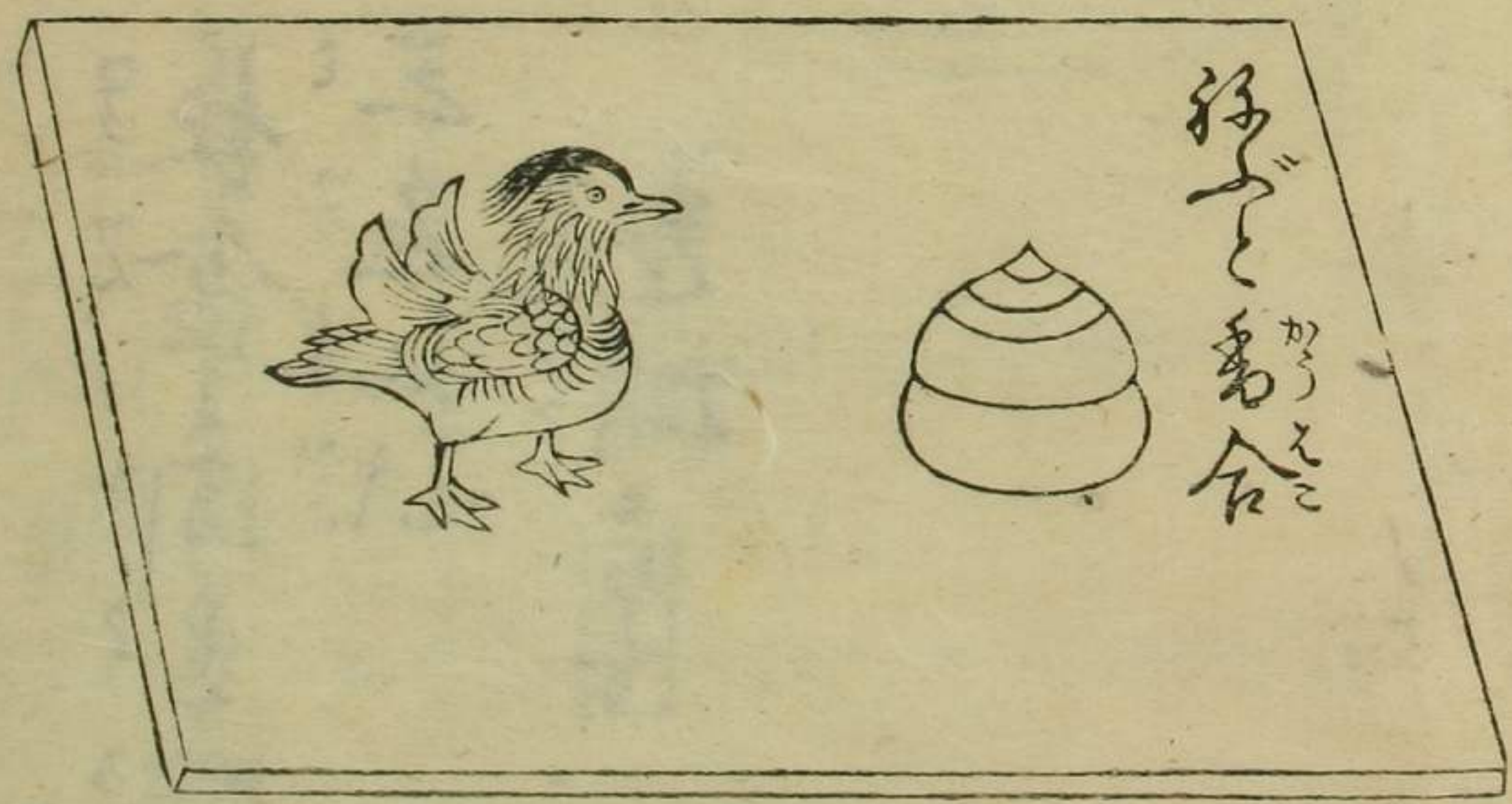
鴨記の香燵

かんざんこ

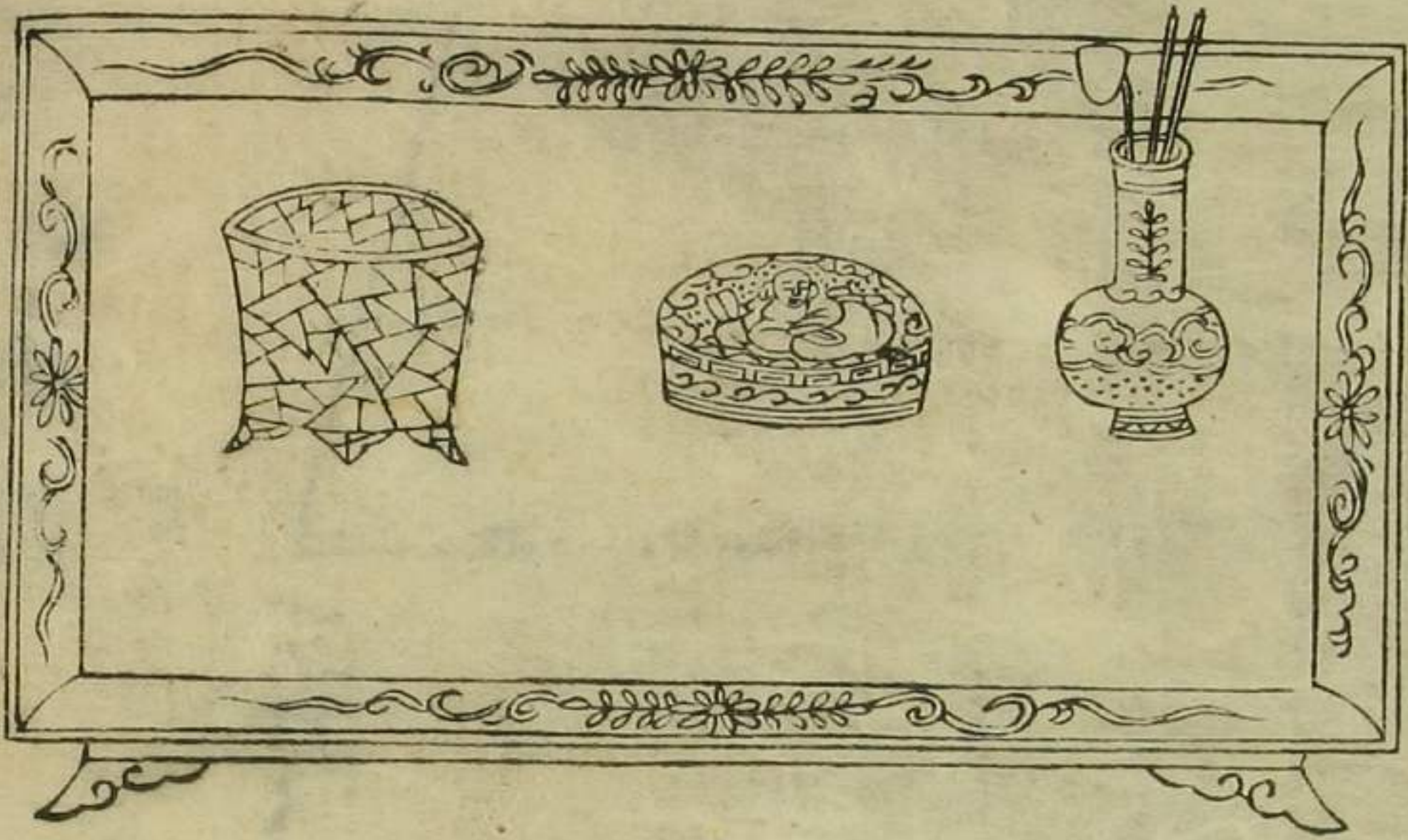


かんざんこ二つ

香合



和名 長命の御膳
和名 長命の御膳



長命の御膳
三色の御膳

毒棚
[]

和名 長命の御膳
和名 長命の御膳

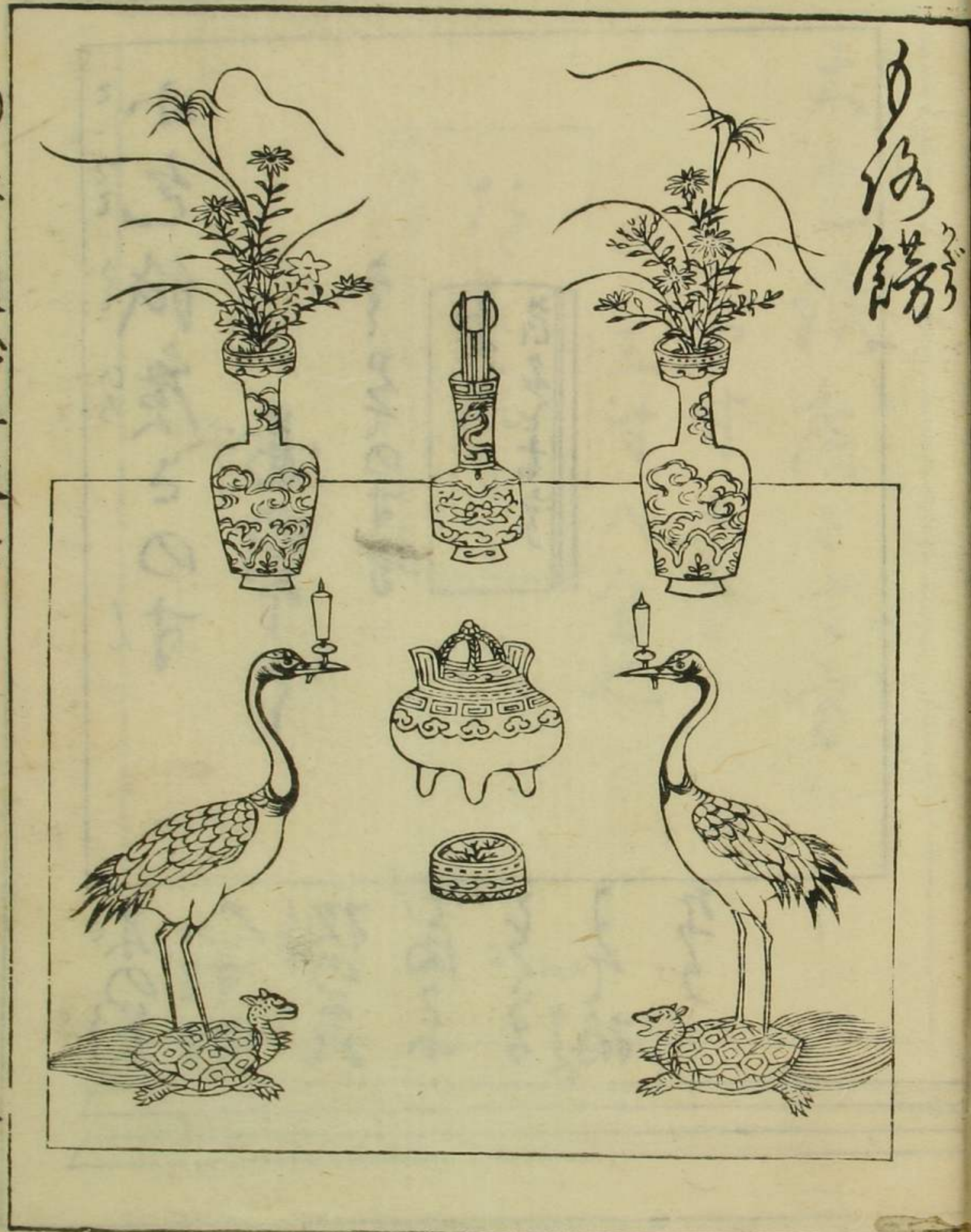


和名 長命の御膳

箸の方たろて。たろてめても同

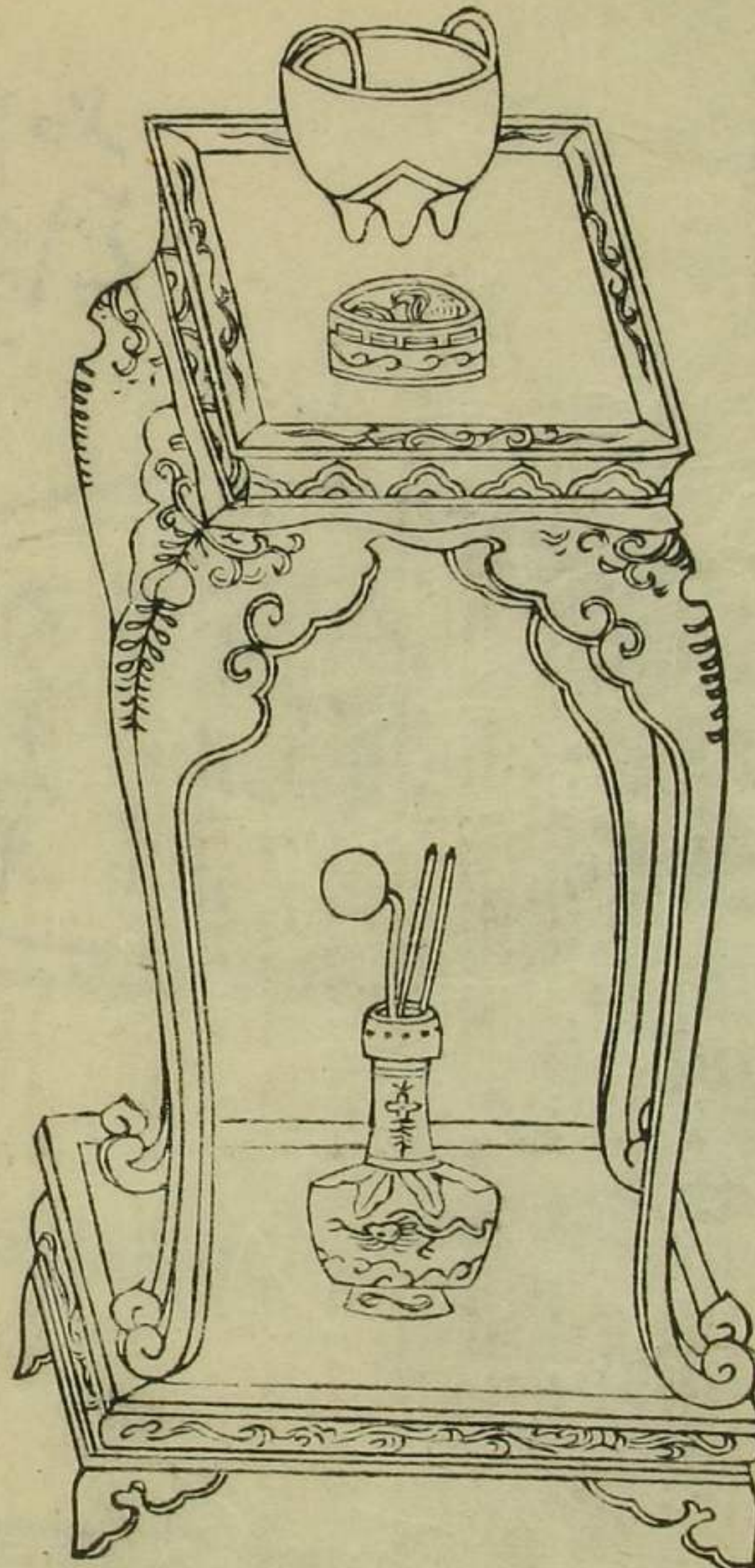
和名 長命の御膳

十一



花
飾

香
箱
起
し
灰
と
香
箸
さ
し
け
こ
と
り



中央の卓飾は不玉所禪
又ハ完焼玉

香
箱
起
し
灰
と
香
箸

茶
道
必
傳
文
三

小包紙廣さの寸

幅の寸

きく尺その寸方

ニタリ
さし名と書字

本の長
乃寸方
板の長
こゆふ
とく
よそ
なり

大包紙廣さの寸

四寸二分
三寸八分

たてれ寸

夫聞香之明德古維今來三國供以仰
慕焉或却椽愚而來神仙或瘡沉
痂而生娛樂不計勝計故明傳曰雲口
說六珠價直百千兩金也達於隆勝
公寄傳受異法誠使獲聞香能
聖妙而得辨產去郡縣的分芬芳
深時人竊以假名結則忽別真偽
乎百教百中而已

于時天正第三乙未仲秋吉辰

洛下翠竹菴道之三筆

隆勝入道殿

香爐と備考正

禪香爐 禪字考ふ小字書に云く

今本書の異本改禪字

舟香爐の下原五合と異本にあり

今補

結のありけふ之 分字一本他毎と改

長巻は圓香炉の色也い巻棚と巻之

巻之異本は巻棚と云ふは此の字を

之と因て本書改

箸大平方 大平方と云事異本は

他出方と云ふは随て本也改

香起は異本各香節起はゆり今也

よと云ひて本也加助字

てタリ け香色也付の三字二ノ字

に異本はゆり今改

奥書の半日雲乃二字曇の一字に

依本改

役 今更本にありて使字より改む

右宍翁齋字入香煙乃畫考正

一圖も又わさるもの画工も命一

の畫改先ゆる

右枝派考正

武部隆勝香之筆記

香煙液の次才事

一も人よ液の香煙の香乃是と

まりたのよと右の指え此派香

煙の中より下目よそくくも

る下目よそ

一等香の人よ液の香は是も香煙れを

香の是とゆりたのよとくたの香

と香燵の口獨よそく液也

下掌の口液時太の口そ香燵の

口獨れ人へ指とつあけて下掌れ若

の口れそよ香燵の

女房煎は液はそれ海の口下は

べーそよ不液也

香燵はそく香燵液時ハ香燵れ也

煎の是人の口そまりて香燵者

燵汁はそまされく又香燵の口は

口は指液の口あのもそ香燵の口

とたの口そ香燵と指れ口そ香

燵の口そ口そ液は香燵れ口香

口は指液の口そ香燵と指れ口香

口は指液の口そ香燵と指れ口香

口は指液の口そ香燵と指れ口香

口は指液也

一香爐底に香事

盤は釋迦親香を唐布袋敷き

きば茶湯の内底に香炉をへて

是れむきの傍三足足の内へ

法も無魚一山水花鳥菓子

よの香爐をへて又香爐を

志野入道の内香爐の底に

必と垂りては

物より先大器底の中より

多し又香炉をへて又香

小あてより又香炉をへて

あてより香炉をへて又香

次目よりあてより香炉を

小茶の香ありたる天目茶

合し何れは外の物香あり

一膳は香香爐は火より

目ハ付くニ方ヨ一交ハ只所トウニわけ
ミハ付結ミんトモトモ又著目ニハ
付クハ香體ノ付率トモトモ思也
一浪乃寸法九分四角ト一分ニカ
ハモ付ハ浪

一完焼ハ浪ノ香體ノ付率トモトモ思也
一又付交トモトモ思也
中央ノトモトモ思也

但完焼ハ香體ハ物ノ香體禱香
體トモトモ思也

一香體ハ入火ノ炭ノ木乃丸トモトモ
ハトモトモ思也
一炭ノ長セカケハ也
一火トモトモ思也
一炭トモトモ思也
一炭トモトモ思也

くげよりそも灰とを著め三つは

くそと又垂流計は著め二つは

一服はハ界儀あり

一卓よりご香爐ふ垂也

一香爐袋は入く籠は垂事あり

ハ香合袋はふ入懸別香合ハ何

も袋は入てり沉香入也

一香爐名物とて多人の背に所

多入りみ袋は二反ハ大と

せしゆ事あり又垂く床は垂

一香爐はくもたぐハ火ふ

ハ名物もく

一香とたふ事有焼ハハ

くもあくさくさ沉香とた

一然のしハ焼あり

一名香とハ名焼ハハ

一雪の中よりあつば香をたたく

おんのかげ

一名香一柱の焼二柱の焼より

静けりあつば三柱の焼より

ても後次香とも焼より

一太子号法隆寺 蘭奢待号楽寺

苾芻名物の香の内焼より守る香門

かどくそとふの葉内にて焼く

月せし香物より焼く亦香れ道と

知りあつばあつばとんそとあつば

あつばの香もあつばの焼より

あつばの焼よりあつばの焼より

あつばの焼より

一十一柱名物の香れ事

法隆寺太子カ戸

逍遙

蘭奢待末香

三芳野

香道秘傳文三下

紅麩
中川
魚橋

古來
法花院
八橋

圓城寺

一又十種の内乃香又その外の名香は四季無雜款云々折々たたく一
一名香包紙のりた包小包又ハ香合
合あいうハ方紙も小包あるべし

一名香十一種ハ包紙ヤリ
一香合ハ香包紙入奉三種ハ種ハ銀
一も入包紙ハ下入ヤリ

一香合ハ包紙ハ所香又入れ入り
寸長さ三分幅二分厚一分也
一鴨ノ獅ノ香總ノ香合と名香同
わぶ羽えりり香總ハ類とた

香道秘傳文三下

新羅國分

似に き ひ

楊やう き ひ

月つき

法はふ け

丹たん く

為ゐ く も

芙蓉ふふ も

十九じゅう く

般はん も

玄げん も

立た も

充ちゆう も

紅こう も

上じやう も

山さん も

多た も

第だい

子こ も

新しん も

富士ふじ も

花はな も

為ゐ も

富士ふじ も

武ぶ も

羅ら も

右みぎ も

寸すん も

高たか も

八はち も

瑞すい も

月つき も

年ねん も

美み も

初はつ も

波なみ も

難なん も

袋ふくろ

青あお も

斜しゃ も

八はち も

為ゐ も

八はち も

ちち も

索さく も

新羅國分

二十五

香道秘傳

枕

生薦

善班分

中川

空梅

七夕

鴈金

善班分

魚橋

日新花

花鳥

二葉

沈介

白梅

早梅

次子

彼寝

夕時

雛子

松根

榮子

寢免

の石

松風

野分

右名者本

所

加

心

料

那

進

丁

有

西

社

用

香道必傳文三下

二十六

名香園の事

法隆寺 太子

茶旗檀子つらも屋うくまやーやう

海く山

一 東大寺 伽藍中とそく出ろ又中

くうよ山行て又中

よ口女夜月と山行て

う海く山行て

一 道遠 伽藍中

大さうりうとく山行て

茶

一 三吉野 伽藍中

中り山行て

一 希同

一 法苑 伽藍中

一 待傍 山行て

音道必事文三三

三三三

中戸と世多次た〜きと園子人
百ふね

こゝ十一粒

一似園とく伽羅末たるより位三粒

中戸とく中末の末たると同前

一富士畑中初伽羅末たるも中取んと

同前

一草蒲本西野園中ハ女も野生の中

中戸とく中末の末たるも中取んと

焼中ハ中末を之付ハ中結も草蒲

と中て一筋ハ中末を之付ハ中

ハ中ハ中末を之付ハ中健ハ中

一一般ハ中末を之付ハ中伽羅末

一ハ女ハ中末を之付ハ中末

似と同前

一鶴鳩畑中ハ中末の末たるも中

香の芳分を法に竹の本雨を
もみ依るりりそ本を養ふらり

あやこりんちり

揚を祀そ依経聞う川くわろ

けき内針そあらくとつさかく極を

ろゆはけり火束の似と同あ

一玄宗そ依経ゆらけくしるる肉ら

くときる聞はけり香一腹あり火

どよハ揚を祀と同前

青梅本雨依経本をさうすくあろく

あけらる青梅のそけけ

一花梅いまそ本路をく不らん

一梅将本路ゆりそあけ経ゆらん

性子笑ふらん

一漂櫂よく依経改経のそ路性

二圃中りる分列そけ

一月より依野中いづれもたくりあぐ
 屯やうふはたむ小糸依野月似戸作
 林市よりお中
 一龍田より依野古今も掃かろ
 一白梅とて出物山陰も同あれ
 一紅糸架より出物山陰も同あれ
 一斜月間立田より似中より依野より

一白梅とて出物山陰も同あれ
 一香健より出物山陰も同あれ
 一干島間より依野中いづれもたくりあぐ
 一久間より出物山陰も同あれ
 一法总依野中いづれもたくりあぐ
 一本珠より出物山陰も同あれ

一 充梅本如ハ依死ハ少なるとも依死の

やうには言れど一服ありき中少

ハ守垣本如依死中香健ハ少

一 花宴正強開子ハ掃子中ハ

真那様れ者わくふる分判中

一 屯雷あり同

一 賀前より同

一 葉子中ハ真那様一服と古く

よ少

一 卑不る

一 橋岡子生那花より美より

一 中静子中ハ未久ハ少

一 花散置岡子中

一 丹震本如依死中健ハ少

一 屯取ハ中ハ新依死一服屯やふ

らしく少

香道秘傳正下

一 三葉末開片うはばな

一 次慶之生花班つぎのま

一 明石同前あかし

一 十女新いまこ竹中あしづ

一 隣家竹いづふ毛古の依羅となり

一 夕時多よと生花班ゆふとき

一 手枕末開片てまくら

一 立物生花班たてもの

次々しく開片つぎつぎ

一 雪井生花班ゆきい

一 紅と依羅べに

一 二葉ふりて花ふたば

一 三葉梅とまきさんばな

一 神楽新依羅花かみづら

一 子梅生花班こばな

一 霜来ふねしも

香道必傳正下

一 夜 足 生 形 班 上 他 本 鑑 中 帝 公 性

よ 子 ね 心

一 七 夕 月 夜 中 古 生 形 班 上

一 藤 目 伽 羅 但 本 鑑 性 子 ね 心 分

一 別 無 心 行

一 為 紅 伽 羅 同 心 乃 心 行

一 為 雲 同 心

一 上 馬 心 伽 羅

一 本 心 乃 事 伽 羅 國 生 形 班 上 帝 公 性

一 竹 心 乃 事 乃 鑑 者 由 心 行 心 行

一 心 乃 事 乃 鑑 者 由 心 行 心 行

一 本 心 乃 事 乃 鑑 者 由 心 行 心 行

一 鼻 心 乃 事 乃 鑑 者 由 心 行 心 行

一 心 乃 事 乃 鑑 者 由 心 行 心 行

一 香 燒 乃 事 乃 鑑 者 由 心 行 心 行

一 心 乃 事 乃 鑑 者 由 心 行 心 行

香 道 公 傳 又 三

三 四

香道秘傳

三十四

ハ子梅くはなむ、
一丈あひのりちるる火入くさげく
追ふそいりも火とあうくあして
とほくよとよつて行さるやうく

右此一冊の終る極寒感の内
急ぐに間不及先兆存知自
作一向之切法も相毒而已
能く朝や中夜に糸を
以て清徳を正し
建部隆勝

天正元年十月吉日

道甫集

建部隆勝

香道秘傳

三十五

建部氏香之記考正

想別ハこのハの字ハ衍文ハ今ハ削ハ

小夜之夜 此小夜の下ハ字異ハなり

あり本書今補ハ

法隆寺 蘭葉侍 かまの二二ハ字

別ハ本ハは各ハ中ハ後ハ人の加ハ筆ハたハるハ

ありと事ハあり今ハ削ハ

折ハや別ハあり一ハ本ハに別ハとハ也ハ

よハ也ハ

あり今ハ恐ハるハよハ改ハむハ宗ハ温ハれハ書ハよハ恐ハ

よハ也ハ

香ハのハ教ハんハとハ異ハ本ハにハよハ也ハ

通ハひハ今ハ本ハをハ改ハむハ

ありくハうハれハうハのハ字ハうハよハ也ハるハ一ハ今ハ本ハ也ハ

あり改ハ改ハむハ

ありハらハひハもハうハ字ハよハ字ハにハ也ハるハ

と流るとりてうりわら細くま同と
云事わぶ一

代書と同家
今代書王政考前に同ト

一書梅 考字當他書信本同之

建下西流
建字恐ハ健字わらま

とららと信毎一

八重恒 下本字脱ハ柔本と補之

一花常あり同
けハ一梅常あり同ト

の文あり他本各本考之又何其
なる信ハ本書割之

一花ゆ不戸
兼板花の字れ下散置

の二字脱今考柔本本書補之

その内とを
その下信ハ本書こ

五信斗

斗字一本信ハ信今改

信ハ斗
斗字信文也今割之

新字 け下石字 脱今本 今本 補

此の字のド 今本 補

此の字のド 今本 補

改

梅の季の字上冬字 今本 補

今本 補

改

改

興書の中 一向 此の字 下

の字 今本 補

今本 補

改

改

改

改

改

右建部氏香々集記誤字脱漏
考正と事如し

大板源芳考正

十組香々記

十姓香々記

一五娘

三〇

二〇

一〇

ウ三三一 一 二 二 三 一

梅花名のり 一 二 二 三 一 三 三 三 二 一

七

緑竹アキ 一 二 一 三 三 三 三 三 一

五

芙蓉ふ 一 二 三 一 一 一 一 一 二

七

芦葉ろ 一 二 二 三 三 三 三 三 三

十

芭蕉ひ 一 一 二 一 三 二 一 一 一

四

此十二枚より中十枚香如香の色は
 考のどくニ文とニ色付九色又おの
 香と一色密とすなりれ十二枚ハ一乃
 れ三三のれ三三のれ三三密乃れ三
 乃ら大かより香はつぎおのよとたの
 るそそりたのよよとたのよとれ
 むひてゆらり香煙と考のよよとて
 次の人より一乃時大かより札筒は

一乃のれと入次の人れあよとくす
 行を一乃れと入て次はまよれ也二番
 の香出時袖の白ひと同ト物と同一
 時ハ又一乃れと入也三番れ時一
 乃物ら香と同一時ハ又一のれと入也
 二番よおら香とゆら時ハ二のれと入也
 一乃そも二乃そも乃は同一時ハ三乃れ
 と入也行も白ひと同是二のれ入る

香とゆふ時ハ竹内と一乃れと入之れれ入
 する香とおひの時の^三のれと入るる
 室の時一よても二よても三よてもか
 とおひの時の客のれと入ぬ一客よゆら
 香かよひて中時の内れとあまそ一のれ
 と二枚ゆ一客也剛一客れ客客也是と
 初客と一也一のれと二のれと三のれ
 れと七又客のれめをも数るとおひ

と二枚残とあり是客あり十客よ客
 とといとそ客と云る客よ息あつる事
 一客ハ息四の二の息二ありれ入る客
 ハ二三客と改客とるるあり
 息のつけやう客後びとびとるはわら
 ととるかり場は解也
 丸中れれと一枚のれ筒よ入中本に後
 一内一と一の打居は後一と二客

香道秘傳改正

折居より内と終まで同紙也十種終り
と一の折居より内と終まで同紙也
のびく記録紙よ虫のよる也書包れ紙
と一度くま内一率に十包と終じ
とて包紙もまればるるに内一率と終
よぬまらば下へそる紙一つと終り
て包紙と用と記録紙よ書包れ也
限葉十枚よ内一率の書れと一の包紙也

とたぐも限盤よなるべ也
記録紙よ虫と虫内よ虫教よ入内と終
る内よ虫も一内よなる也
下は内よ教よ虫内よ人よは三種み
と短の字よかき平人よはたぐ文よ也
札の紙よわらよ二字内よ虫て名葉
とよふ付る也書人の内名字よハ一字
紙わけて書也札よ書り書り内同ト

○古書通必事文三二

二二

けいせいのしんじつと名乗らるる小は教
 の雨は雲の一字と書也あわらるる
 あれは点とくは也是あわらるる也名
 乗どしてはなるるは不書と書
 ありそはの一身は云を命と記し
 する事もわりのしと也

○花月香記

月一花二月三月二花三花一客
退加

花月香記
 梅花月一花二月三月二花三花一客九
 緑竹花一月二花三月一月一花二客一星
 芙蓉月二花二月一月三花三花一月一持

花月香八

月方名茶
 芦葉月二月三花二花三月一花一客持
 芭蕉花三月一月三花一月二花一客五星
 青松花一月二月一月三月二花二月二四星

月方星九 月方星了

花月香のり香六色と二宛十二色より
せとねとすりあり

花月香のり香六色と二宛十二色より
六色よ花一花二花三月一月二月と
香色のりよと付ては六色と試し出
残六色ハ色紙のりよ花一花二花三月
一月二月とせとせとせとせとせと
そそ試の香よ花一花二花三月ハ

花三花八月一花八月二花八月三と中
より名乗るて出り也但香煙二つ中本二
つあり花方たよ居た方より三花出
及月方より出とあり試とせ六色の用紙
きくても一包あり花方より出り中本
試の香に思合せ也一の思合ハ花れ
一のれと入り又月一と思合ハ月一乃れ
と入り残るれも同一又香を入り七箇

香道秘傳改正

四十四

さうせとじ

ワにいね

名系

都の石

名系

あうすじ

名系

世はうらと

名系

人のいささ

名系

字治山番と事書み色と十少くみ

色よいらよと書み色よいらくし中

おるり又色の法と出く時書付れ

く是の我店是の都の石と是の

我とじ是の世はうらと是の人の

ありと又色さるる名書ておん世と

て又色の書れうら付書るるも一

出く時我店はかりと都の石と

ありと又色さるる名書ておん世と

は我の書と書ておん硯箱乃

香道秘傳文三下

四十七

一

名系

二

名系

三

名系

又同系

四

名系

又

郭公香はうつくおのまが同きくうらば
一切つこ色紙のこは我名と書付出ま
尖中清取香のくけ幅同し紙よそ久

同く久は深て色くねくはそましくれ名
系と書付らるり同納く竹書目乃香
我香と書いし紙のうらふ一とまら
せ二とめりとも公取香と書付らる名系
と書かすかみさそ紙紙と用き記録紙よ
一これ二雅と虫のせも及面くの色紙
と記しき記録帯れ端よ虫のせ書き
よ息紙うけあさう所るよ早とりしん是

自然あ人因ト香と出まらるる時
はじめてみ物らと先記して後に出る
と同前ト出地履をバ一二同ト香れ
時札紙ト一二同前ト書るるり
きりあててもち極同ト開あてら
文も極るる

○小篆香の記

やうき

懸合点

やうき

きやう

うやう

合点二

やう

同

うき

同

小篆香ハ試わりのまじり字數紙を
紙入色まきやうるれハ口色のうら二色
ハ同香妙二色ハ列の香也わさがるれハ

口色るる利の香也さくやうなすじバ一
 二の香とこれ香と名付三番目れ香
 とやの香と名付四番の香とこの香と
 名付て試よかふ試よて太田交れ香
 とよせ合何きるりととて香好よ香
 出よん口煙よふ同て始二煙つべし
 ては二煙りよりと同くはかき
 となるやもたつらやこらりやせせと

一と二煙りよりては二煙はつて
 同くはかきと成るもやうと成
 も虫約略同ド紙何きし紙紙
 よ字一もは色紙と開る處りよと
 贅してわらりら紋約点とがらと
 の名教ん法也口煙るれはまらうたて
 一こわさがるる字教の口門を物と
 目也煙るれはゆらるるゆやくやくか

香道必傳已正

どの形也之煙たきばとくもくへくる
どろくくひうり

系當香之記



名系



同 同 同 同



同 同 同 同



同 同 同 同



同 同 同

系圖香ハ香ア又ト十ホノ色也名曰
煙宛也十六色トクマセ也今色ト申
より何也知もア色ヲ考ルル
中ハよりカ一ハ破バ一二三ニ曰活リ

香道必傳文三下

五十五

之方 聞く時ハ札紙ヨ 川 せし 番と けり
 ておとあり又二二同香ヨて三四あり
 付と中へハ川 せし 番と けり 約 名 同
 香 終 せ 札 紙 と 用 せ 付 行 と 圖 と 他
 之 白 色 糸 と 用 せ 記 録 紙 札 端 せ 虫
 付 の せ 点 と かる 也 正 傍 の 字 數 せ じ 色
 之 事 也 圖 小 くり くり くり くり くり くり
 ありと中へハ 弱 あり あり と 傍 と する 也

又 煙 六 煙 九 煙 まで あり 香 あり 香 あり
 て 口 名 あり せ と 端 小 澤 氏 香 と 本 付 内 入
 せ の 名 と 番 の 下 にも 札 紙 あり あり 也

○十煙香燭合記

- 青松
- 一 三 一 二 一
 - 二 三 一 二 三
 - 一 三 二 一 二
 - 三 三 一 一 二

四

緑竹 三一 二二 三二 三二

萩花 一三 一一 一一 一二

梅菴 一三 一一 二二 一一

四

十煙香燒合ハ常れぐく一二三と試と
いしてそり十包とまぜ合せ二包取く

十

瓶よ二煙香人妻也香れ並所原也
あらしやう口傳さよく開定め試よ也
い合せ二の香と也の時二のれと
二のれと二枚札筒よ入也解詰同ド
試の外まどア方と開ら時ハ一ウ二ウ
三ウよ字取れ札と滯也
源平香と記
一三三一 一二二三ウ二

廻さく双方わたり方内中階にたつて
とく 並也一方わたり方内中階にたつて
せん 一間進かしてそとへともむら之深氏ハ
しろ 白旗平家ハ赤旗也両方の大旗と平
たて 立て面々の小旗と我々の赤と並也
むら 苗よくりの旗の紋ハ香れ札と同ド

鳥合香と託

う
う

う
う

う

う

う
う

う
う

う
う

う

う

十紐香記考云

十紐香の中 **三の札** 古板二の札とわると

今之の字は改

花月香の記録古板と云里忌と云ふ

誤多し今改 **大中二抄** 一平依二人

宇治山香の記録と中部のふりとの下

名乗の二字と脱と今補

小鳥香記録古板改訂あり今改訂

又うらひと今うらひんに改む

郭公香の記録の中三の字は下名

乗二字脱今補又四字下 又同前の三
字を復す

修の二つ

小草香の記聞人の名とよわると

今あまひて不補 **云余** 今書修

改む

系圖香の中古板の香記録と云

わ〜今改む

十六このまけ下このまつこのまの三字脱ド以カ實カ本カと補レ

余イ清ノ余ノ字ト今改イ解マ字シ

あイらマとカ傍カとカらカ之カ今イ以マ實カ本カあカらカとカ

傍カとカ寸カなりカりカふカ改カむ

十カ煙カ香カ燒カ合カ記カのカ中カ青カ松カとカ下カ四カれ

字トとカ脱カとカとカ補レ

源カ年カ香カとカ記カのカ中カ出カ高カれカ次カよカ源カ氏カ

方カ二十四カ兵カ獨カけカ八カ字カ脱カとカ今イ本カとカ補レ

又カ森カ花カのカ下カ右カ板カ三カウカ字カ一カ字カづカ

下カらカ今イ改イむカ又カ芭カ蕉カのカ次カよカ平カ氏カ方カ

十八カ兵カ負カけカ七カ字カ脱カとカ今イ補レ

源カ平カ香カ盤カのカ備カ本カ書カ右カ板カとカ色カをカ後カ

とカ今イあカらカよカ立カ物カ盤カ乃カ圖カ初カ心カのカ見カ

とカけカやカとカかカんカがカあカ改イめカらカ川カ一カゆカ

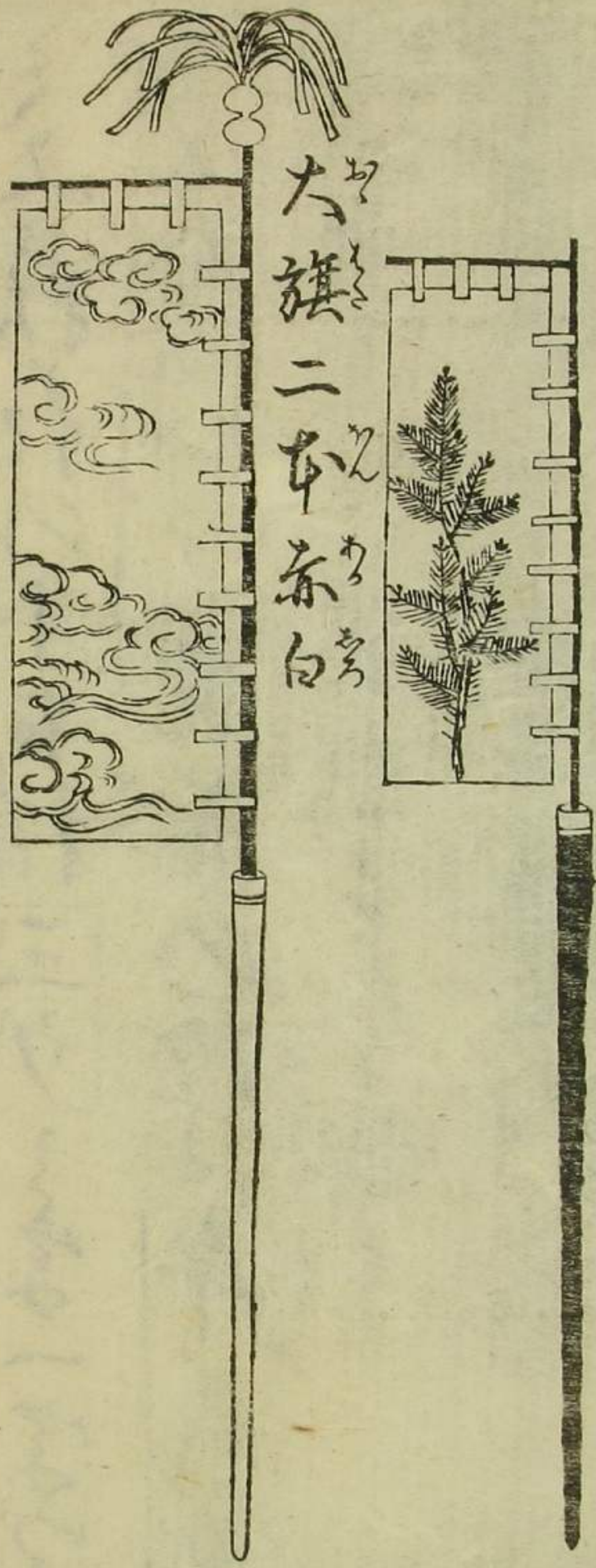
源平香盤の備本書右板と色を後

とけやとかんがあ改めら川一ゆ

源平香立物之圖

小旗十枚 白み赤み

大旗二本 赤白



源平香立物之圖 源平家ハ赤色源氏ハ白色

札の取と後よと又ハ縫よすぐー大将旗
白地赤地の金襴よそお面合よ他ろ介
旗竿ハ金物柄ハ島本紫檀乃取よ
ち白魚一

盤も今ハ名所香とわのりめわに
界一の申に完二川あり源平香の
用ろハ界一の完一川たぐー勝負乃
場よは二川ろろぐーる図の

香之記

香次

- 一 ちぎげんの村とん
- 一 うらその村とん
- 一 ちかこれ村とん
- 一 ちかたさおの村とん
- 一 ちかたさおの村とん
- 一 ちかたさおの村とん

十 十一 十二 十三 十四

一 春のつばき つばき キ

一 春のつばき つばき ニ

一 春のつばき つばき 丁

一 春のつばき つばき 一

一 春のつばき つばき 工

一 春のつばき つばき 一

一 春のつばき つばき 一

一 春のつばき つばき 一

一 春のつばき つばき 一

一 春のつばき つばき 一

一 春のつばき つばき 一

一 春のつばき つばき 一

一 春のつばき つばき 一

一 春のつばき つばき 一

一 春のつばき つばき 一

一 春のつばき つばき 一

香道必傳改正下

六二〇

一 小ゆびまてのござ也
 一 先香煙よ火と入所とくさくさせり
 少たぐして結るやと成儀一香箸
 乃くくく下よ垂一川と等しく
 持てありと結る儀一香煙ハ咽よめく
 乃指かりとる儀一是扱小指を拭又
 香箸と等しくおくよ物開香煙を
 又合よとと也條おる所ハ著二川三方

一 口計とさる根とられ又穴とゆを
 一 もり一扱所と行始の時ハ先ハ垂香
 乃是とひとさ一指の先のそげよく
 指よりらとさめぐらとハたの口計と
 一 垂糸の事香煙の紋とて方え
 一 口計とさる根とられ又穴とゆを
 一 もり一扱所と行始の時ハ先ハ垂香
 乃是とひとさ一指の先のそげよく
 指よりらとさめぐらとハたの口計と
 一 垂糸の事香煙の紋とて方え

香道秘傳改正下

一人は後人の世あま一人は物れ先のそ
 ばまづて後也又下まの世後人も能く
 清きんゝ重なるふ入世あまと定む
 一秘人は後時と集まるとある時乃事也後
 一銀いじとあり乃角と取同ふとある
 一又向くともあり
 一伽羅の類は火はよとあるはくも細く

一乃の類は火はよとあるはくも細く
 一乃の類は火はよとあるはくも細く
 一乃の類は火はよとあるはくも細く
 一乃の類は火はよとあるはくも細く
 一乃の類は火はよとあるはくも細く

一乃の類は火はよとあるはくも細く
 一乃の類は火はよとあるはくも細く
 一乃の類は火はよとあるはくも細く
 一乃の類は火はよとあるはくも細く
 一乃の類は火はよとあるはくも細く

一火とろうそく香炉事等一あつらふ

せうろうのけづー

一名物乃香爐なるべ本れ著るそ所と

ねとあつらわり香爐よと本づつまじ

そとあ也

一香と同一たの指三つ香爐の底よ

有やく人こ指三つはたよとろく指

り指さる

一香爐の香れたよと扇れ骨のたきよ也

一夏ハ香ハさうれぬ也雨乃朝露の夕を

よハ必圖べ一夏ハ香ハ香のきりよ也

一香爐乃底とあとい香と所のよよあじ

てしとろんとたふ也所とさひの所乃

中よ香入るるてぬ也

一香乃香爐ハ底とがとろくかくすらぞ

一香と流るるわらハ指とあぬじて底也

香道秘傳改正

六十七

一名香包かづ紙かみ衣えありいなるなるれれ子こ包づ
ああいいさされれ香かいいよよすすわわり

一香袋かづのの底そこと指さし履はき一い寸すん八はち分ぶん丸まる底そこ

よよすす也やこころろよよははじじりりかかららじじりり也や緒いと緒いとははりり

考かららじじりり一い袋かづのの底そこと指さし履はきはは相あ互ひ結むすぶぶ物もの

一い寸すん也や

一香か煙えんのの火ひ始はじめははそそととききににくくららててままたた煙えん

ななぞぞれれりりきき香かとと團だんとと火ひああいいよよくくららり

そそららにに結むす香かとと團だん也や始はじめりり火ひああいいととぬ

りりくくととららいいわわり

一火ひああいいのの根ねと香かとと根ねののとと指さしととああて

そそととととけけばばわわりりとと指さしととひひくく程ほどあり

が香かそれそれも指さしととああててをを使つかひひるる程ほど程ほど

ののいいととらら一い香かととははががぬぬれれんんとと使つかひひてて程ほど程ほどん

れれりりとと火ひ穿くららののああらら行なるるががううり

一い寸すん也や香かのの底そこと指さし履はきはは相あ互ひ結むすぶぶ物もの

一 火末くもろ也是ハ新さ香と懸る香也

一 一もこの香ハ初中後とも小同ー同也

一 八守苗ととみまきとゆつてもろーゆ 隆

一 務りやー也

一 一匹ーのあつ香ハ依懸計也十 **種** の糸

一 一むじハ依懸して七久ー一なり

一 一中川依懸よまよま生那斑也

一 一香いごあけく付まかぶんとつごまー

一 一らあぐなごのねほくみりー香同付

一 一ハ灰と突よする也香焼付がろくよする也

一 一生那加六同のまくーとろくー也

一 **あんとん** の **ろ** **毎** 灰の **ろ**

一 一まきご焼粉してきろのふれ中れ白

一 一とまやま二種とぶがよ合粉して香

一 一香煙よ入火とほくろ也

一 一香煙の灰よ沌のひれほくー葉と干て

右の筆記誰人の他と事と知れ終
は姓名と子記書中又不定ぬ事
多し古板と下巻に始と入と事
と今下巻の終よりと事ハ九例
考とそよ

享保甲寅年正月

大板源芳記

香之記考正

此記作人の他と事と別と初め
才と事と疑論凡例及附録と事
其如擬ハ一字の下と字脱と本書ハ

是代補

口辨 辨ハ誘也と字書にありて
びくと訓ど恐ハ計の字なり
びくとてハ文義不通依て本書改

良と 今の異本改銀

香炉の文 いまいそい 今本改銀 かんといま 今本改銀 かんといま 今本改銀 かんといま

方紙とる也 かたしとる也 今本改銀 かんといま 今本改銀 かんといま 今本改銀 かんといま

書依と改正と しよゝと改正と

小刀とては こたて 今本改銀 かんといま 今本改銀 かんといま 今本改銀 かんといま

改

一太字とる也 いっただじとる也 今本改銀 かんといま 今本改銀 かんといま 今本改銀 かんといま

大よとる也 おほよとる也 今本改銀 かんといま 今本改銀 かんといま 今本改銀 かんといま

いさくはくや小刀と いさくはくやこたて 今本改銀 かんといま 今本改銀 かんといま 今本改銀 かんといま

考合と大同小異 こうがうとだいていせう 今本改銀 かんといま 今本改銀 かんといま 今本改銀 かんといま

系通とが けいとおとが 今本改銀 かんといま 今本改銀 かんといま 今本改銀 かんといま

とる也 とる也 今本改銀 かんといま 今本改銀 かんといま 今本改銀 かんといま

とる也 とる也 今本改銀 かんといま 今本改銀 かんといま 今本改銀 かんといま

一火の良 いっかのりょう 今本改銀 かんといま 今本改銀 かんといま 今本改銀 かんといま

和申後と わしんご 今本改銀 かんといま 今本改銀 かんといま 今本改銀 かんといま

は著て本書には不補おとさかひ

ぬとんす 一本ぬとんのすき所まゝの

すとり今随て本書補おぎのふこれと

写りて 写の下に字脱本虫今おととらん一いま

補おぎのふこれと

きやう一こ一は是 柔本にきやういん

ドろどまよがさる也はゆる今修いま一くそれよ

本虫改正とおぎのふこれと

るへい けい字異本向の字に修おぎのふこれと

と久素不通より修向字に本いまぞんさきつと

書とあつと

大枝流芳校正

香道必傳改正

